


2022年3月期 通期決算の概況



2022年4月26日(火)
モーニングスター株式会社
代表取締役社長 朝倉 智也

連結決算の概況

2022年3月期の連結業績

- 3月16日公表の業績予想(売上高、全ての利益項目)を上回る数値
- 売上高および全ての利益項目で過去最高を更新
- 利益項目は全て前年同期比で二桁の増益を達成
- 売上高は10期連続の増収、経常利益と当期利益は13期連続の増益

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期 ＜業績予想＞ 2022年3月16日公表	2022年3月期 ＜実績＞	増減率 (%)
売上高	7,485	8,100	過去最高 8,123	8.5
営業利益	1,765	2,000	過去最高 2,129	20.6
経常利益	2,155	2,350	過去最高 2,403	11.5
当期利益	1,318	1,400	過去最高 1,454	10.3

連結売上高の推移

売上高は10期連続で増収を達成

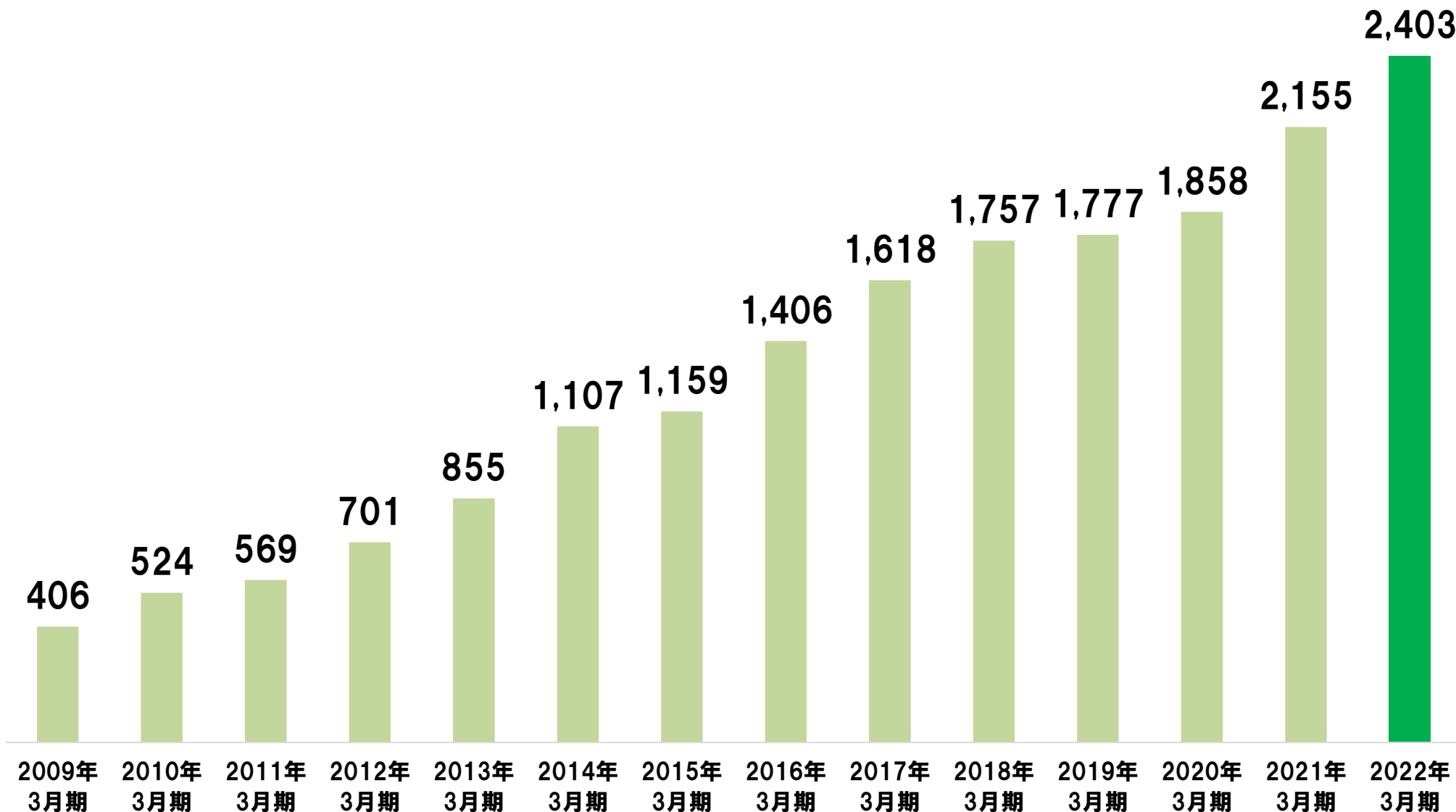
(単位:百万円)



連結経常利益の推移

13期連続の増益、11期連続の過去最高益を更新

(単位:百万円)



主要なサービス別の売上高の増減

(単位:百万円)

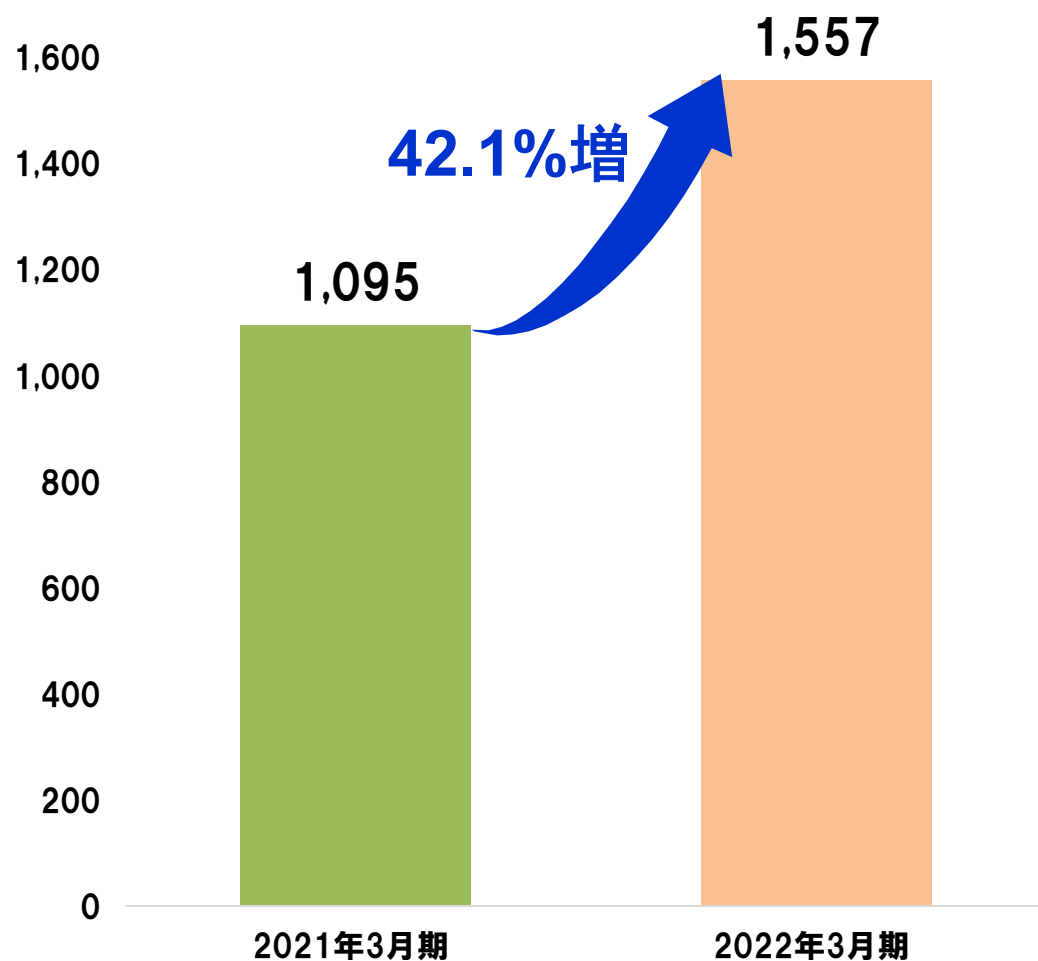
サービス名称		2021年3月期	2022年3月期	増減率
アセットマネジメント (運用受託報酬)	SBIアセットマネジメント	2,243	2,479	10.5%
	CARRET Asset Management	1,132	1,337	18.1%
	SBI債券・インベストメント・マネジメント	1,003	1,206	20.2%
	SBI地方創生アセットマネジメント	603	914	51.5%
データ・ソリューション	ファンドデータ (タブレット端末向けのデータ)	514	600	16.8%
	(スマートフォン、PC向けのデータ)	711	730	2.6%
	株式新聞Web	51	72	41.2%
メディア・ソリューション	メディア・ソリューション (セミナー関連)	209	327	56.5%
	(WEB広告)	83	174	2.1倍

セグメント別の営業利益

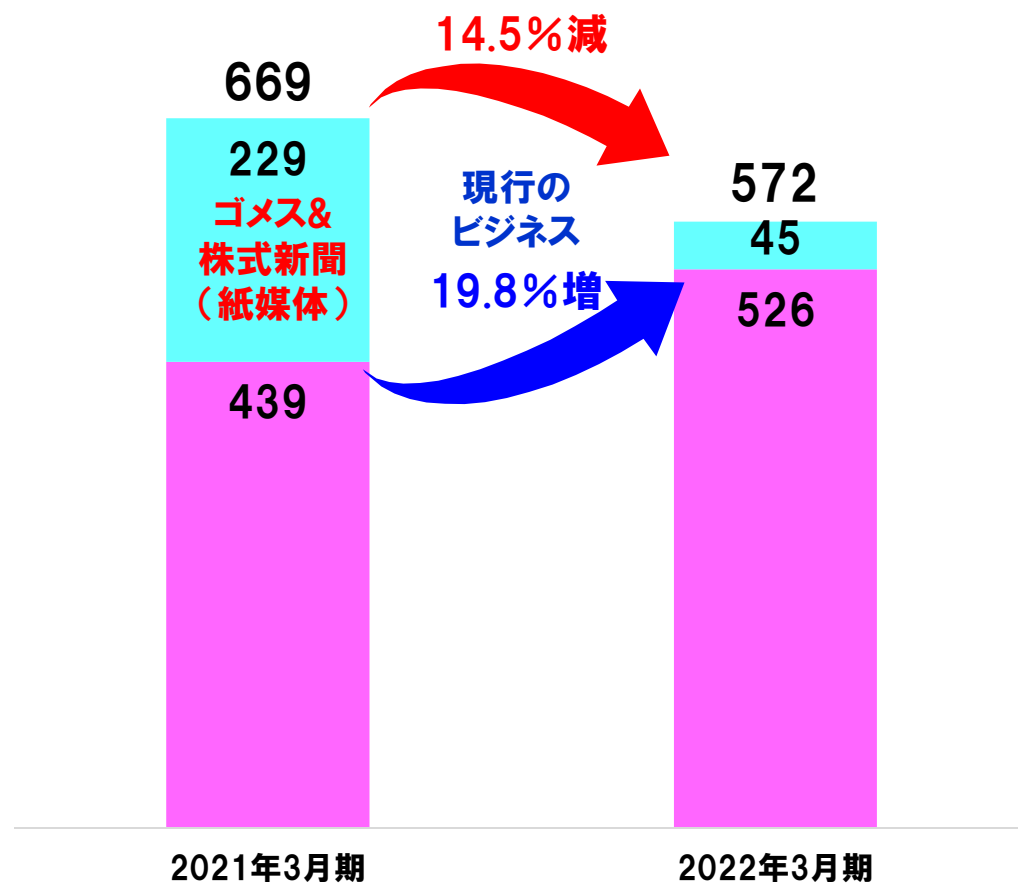
<アセットマネジメント事業>

<ファイナンシャル・サービス事業>

(単位:百万円)

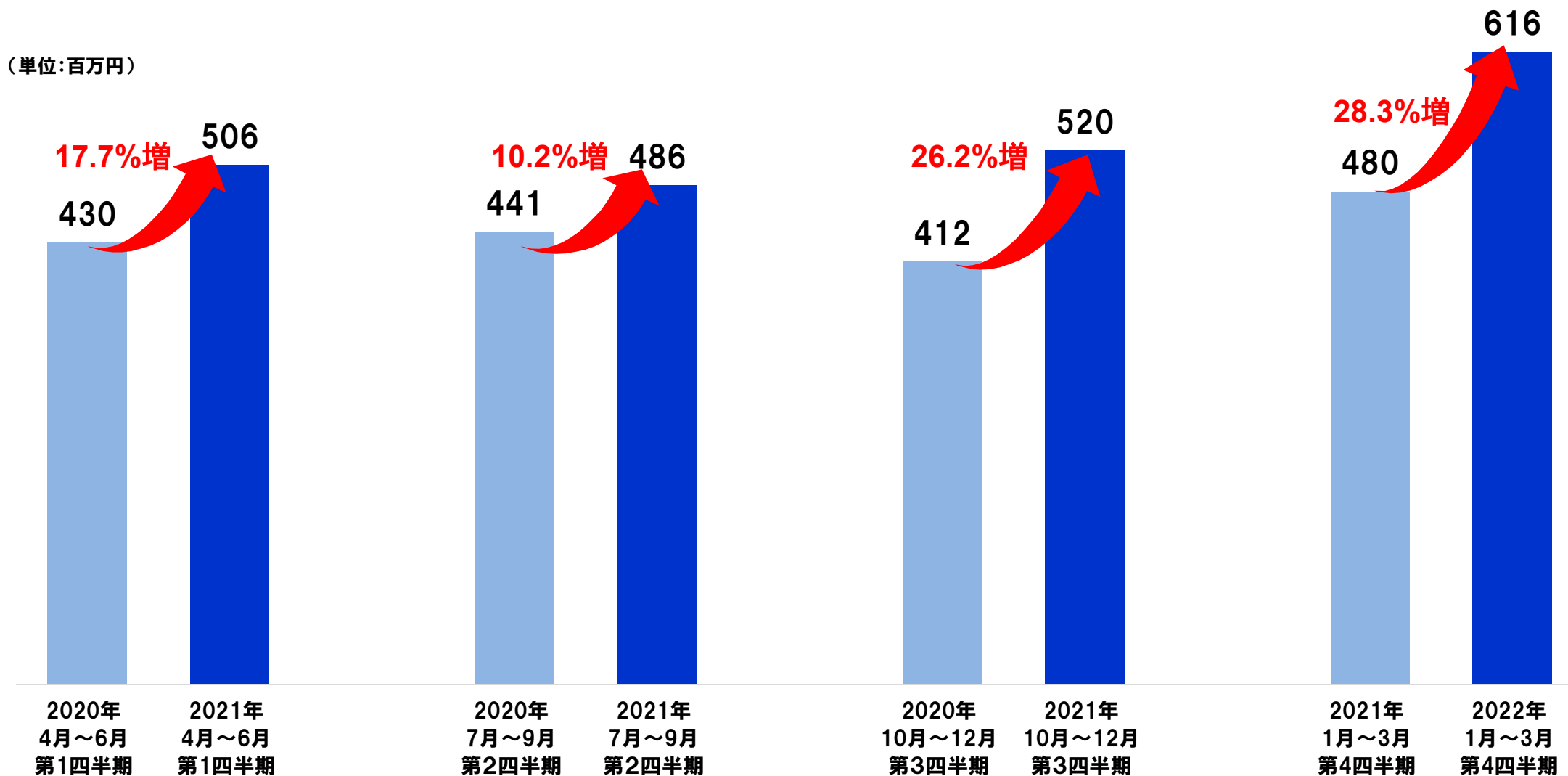


(単位:百万円)



四半期(3ヶ月間)の連結営業利益の推移

2022年3月期の各四半期の営業利益は、全て前年同期比で増益

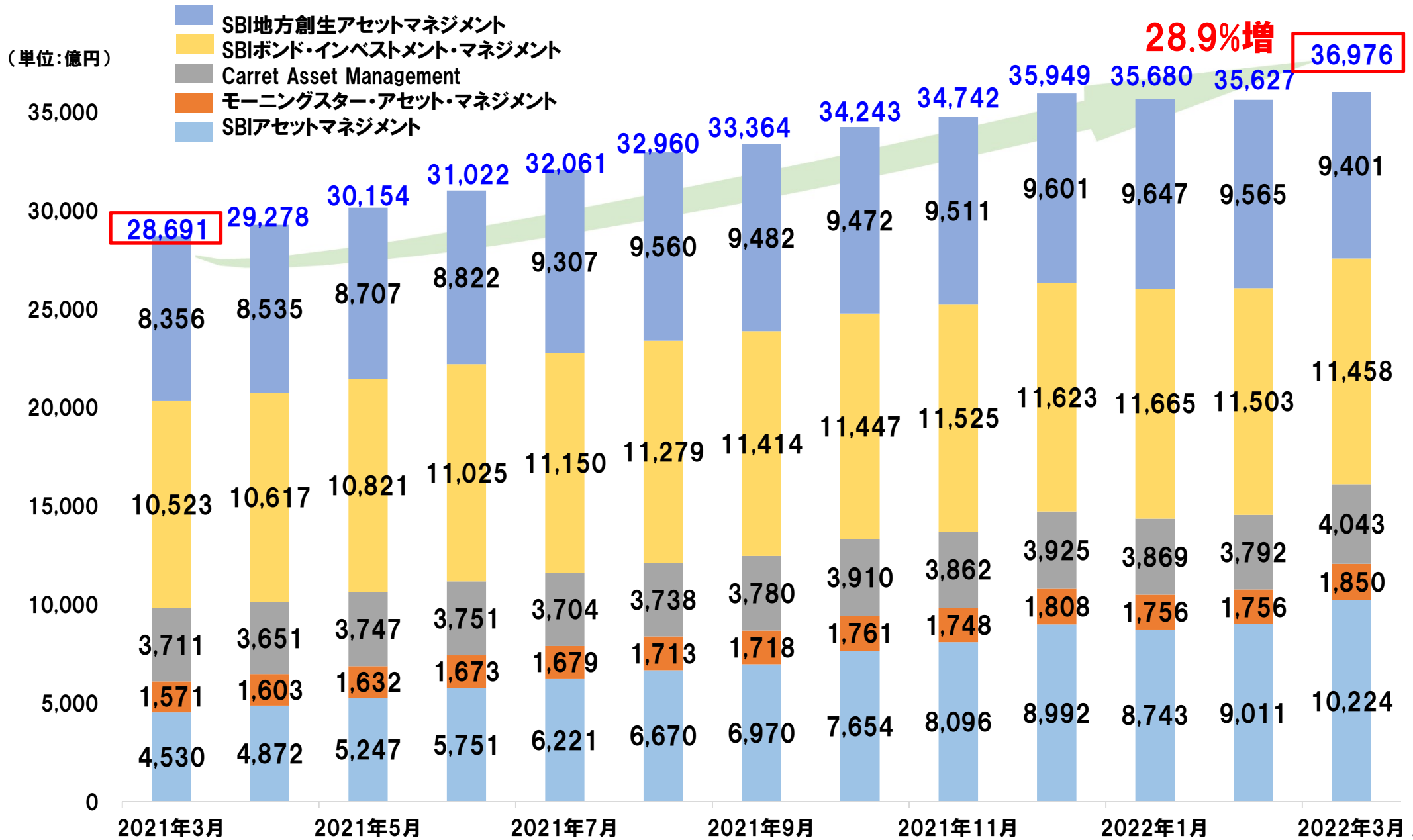


アセットマネジメント事業

引き続き拡大する公募インデックスファンドと
私募ファンドの運用残高

当グループの運用残高の推移

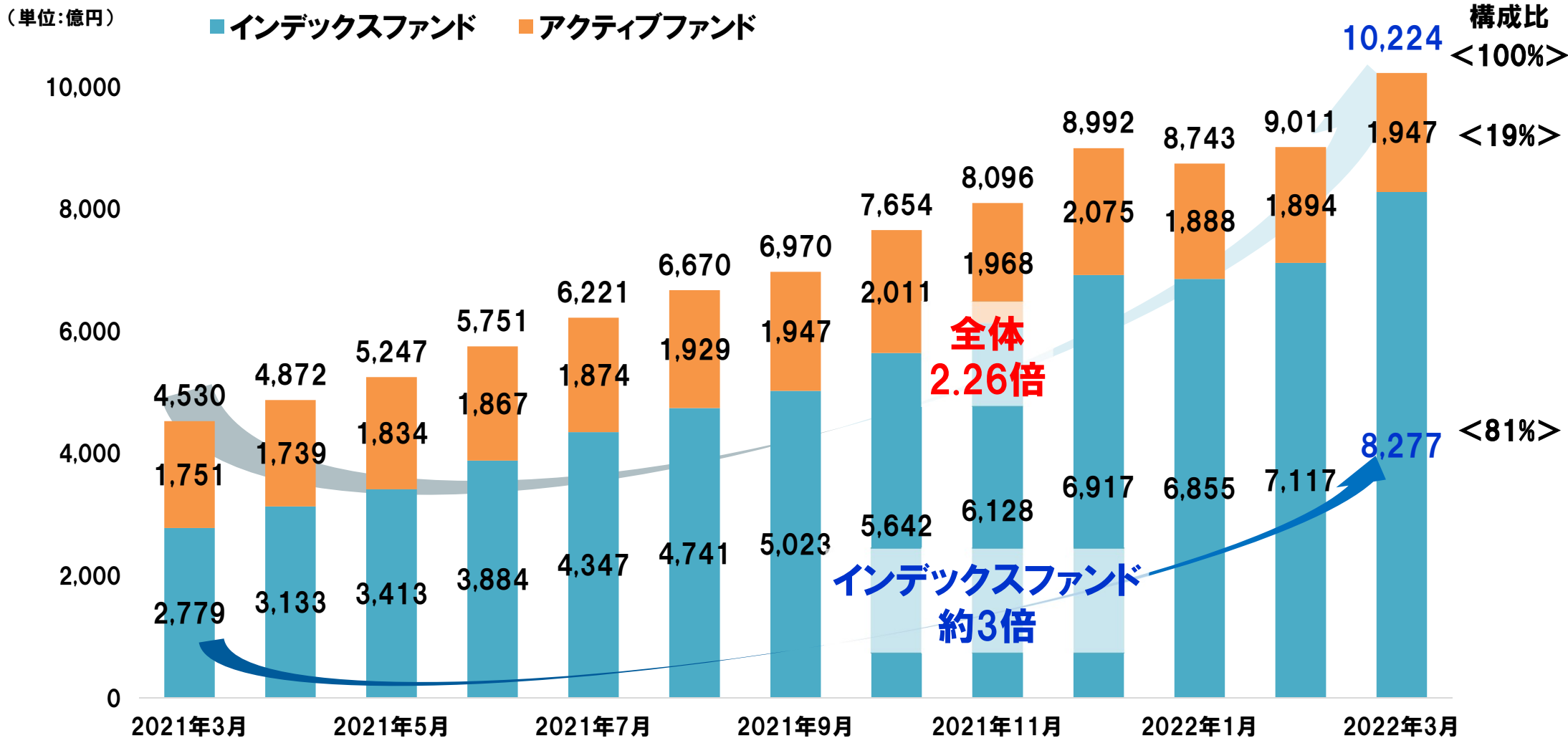
全体の運用残高は約3.7兆円、前年同期末比28.0%の増加



SBIアセットマネジメントの運用残高は1兆円を突破

インデックスファンドの運用残高は前年同期末比、約3倍に拡大

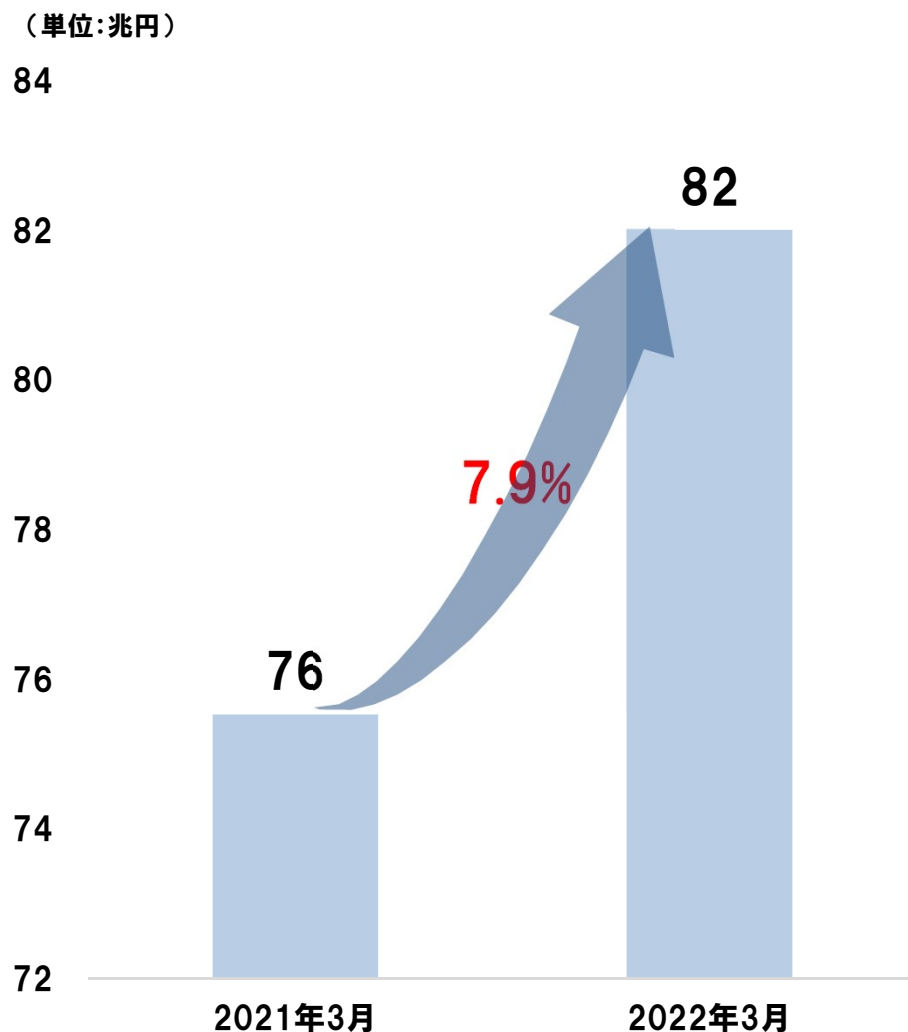
アクティブファンドとインデックスファンドの運用残高の推移



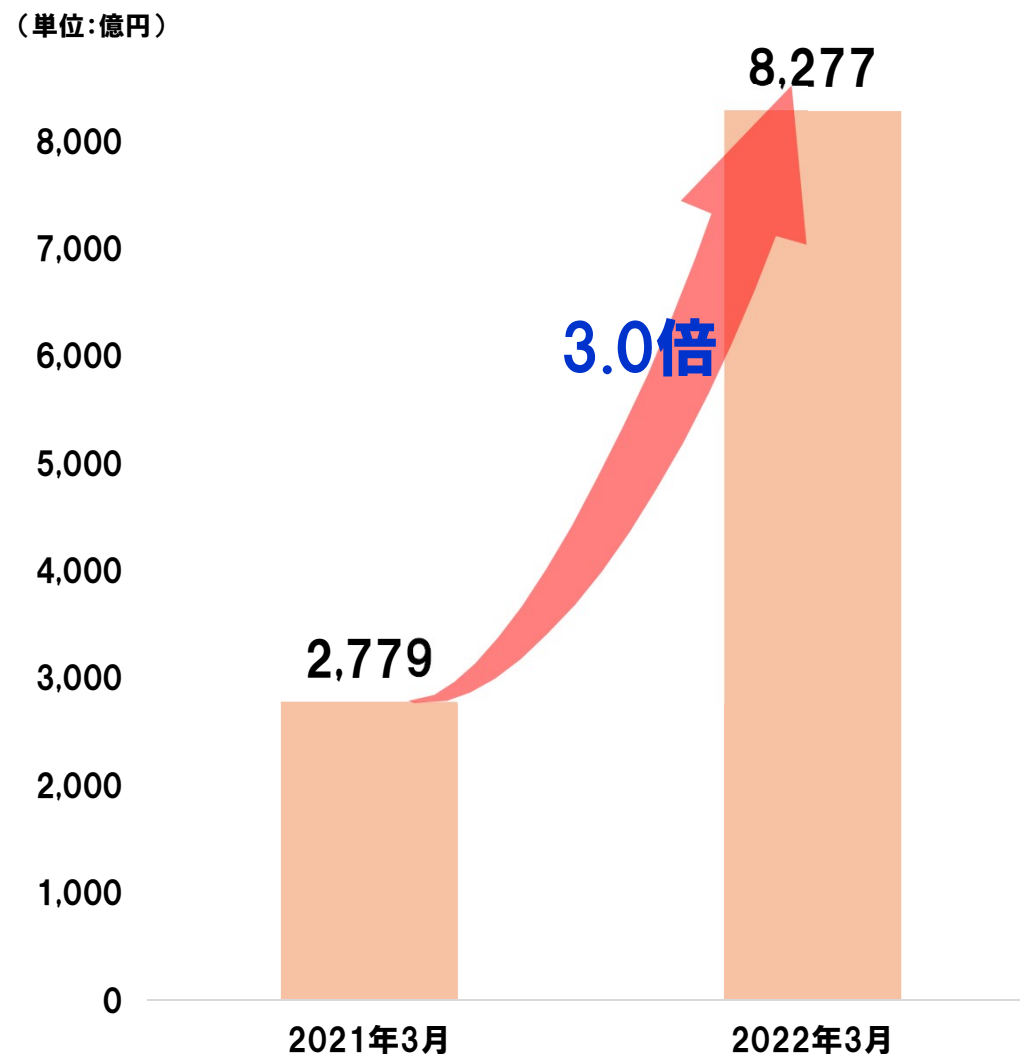
※ 私募投信、年金等を含む

「投信業界全体」と「SBIアセットマネジメントのインデックスファンド」の運用残高の伸び

＜投資信託合計＞
公募追加型株式投信（除くETF）



＜SBIアセットマネジメントのインデックスファンド＞

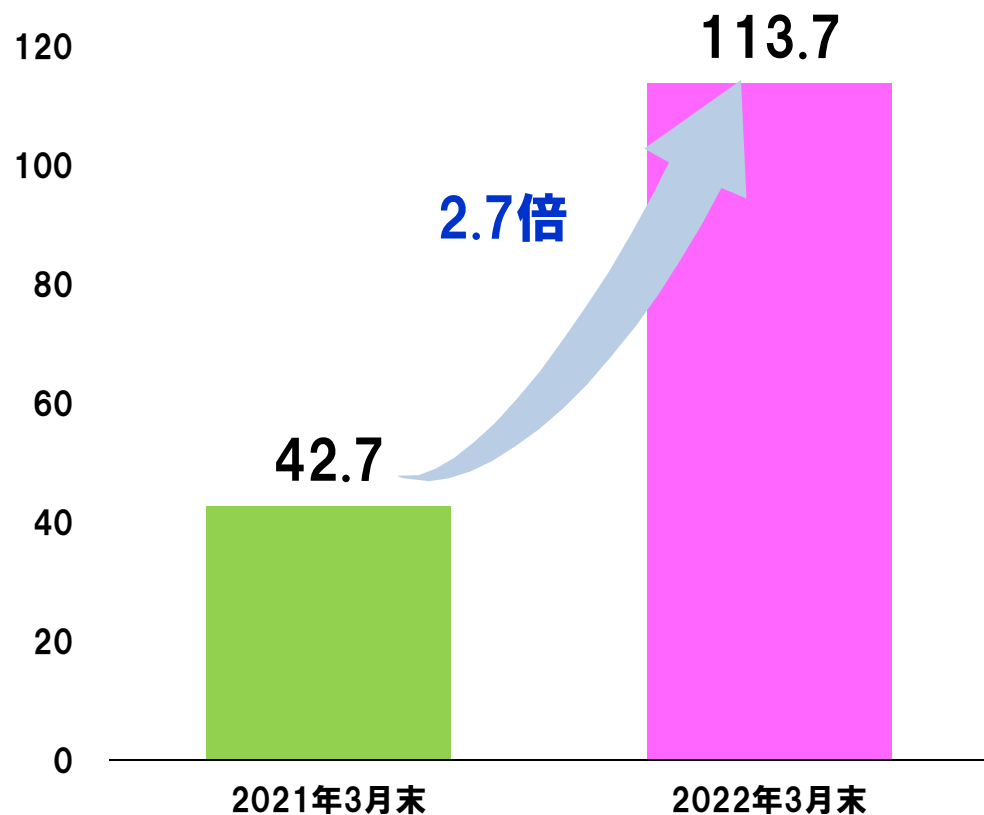


※出所：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会のデータよりモーニングスター作成

SBIアセットマネジメントのインデックスファンドの 受益者数と積立口座数の伸び

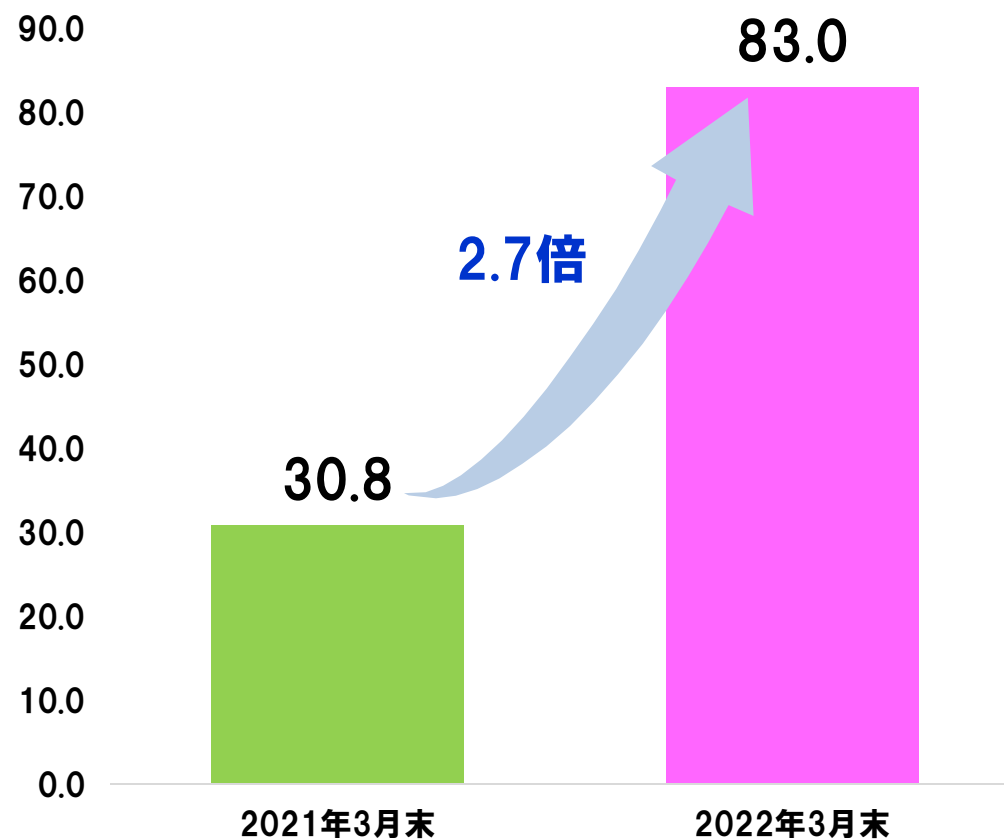
<受益者数(口座)>

(単位:万人)



<積立口座数>

(単位:万口座)

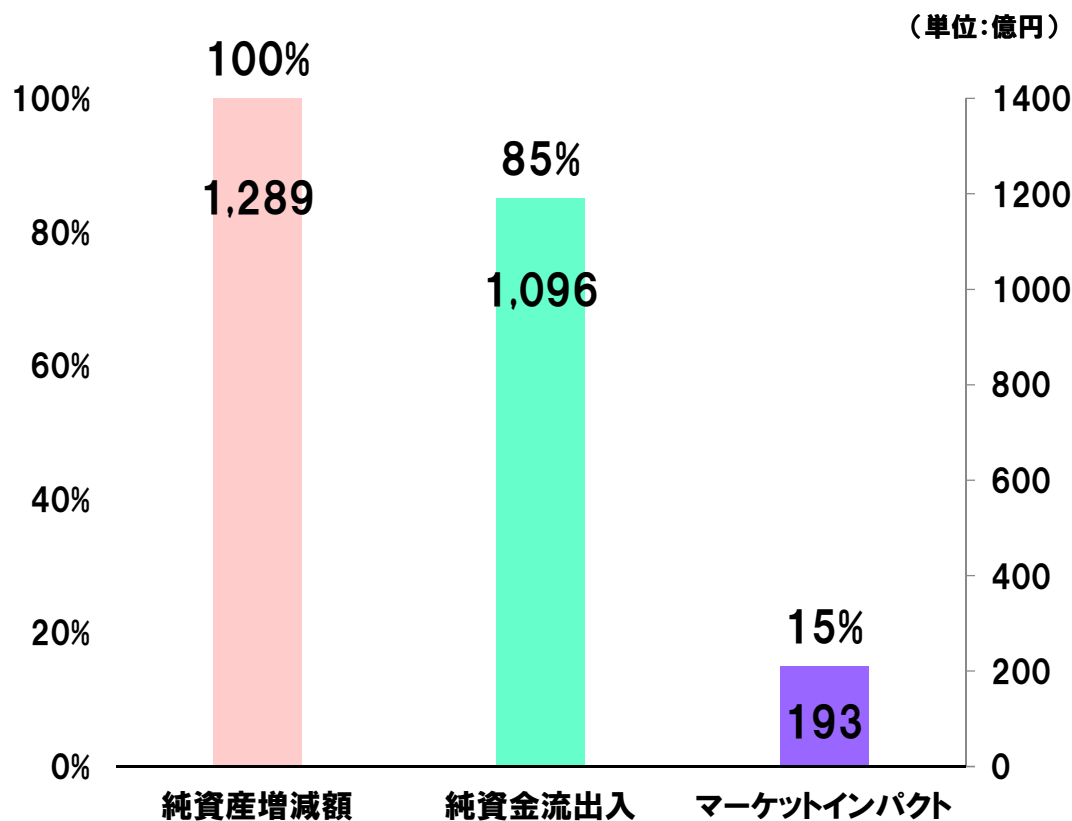


※ 受益者数と積立口座登録者数はSBI証券1社だけの数字

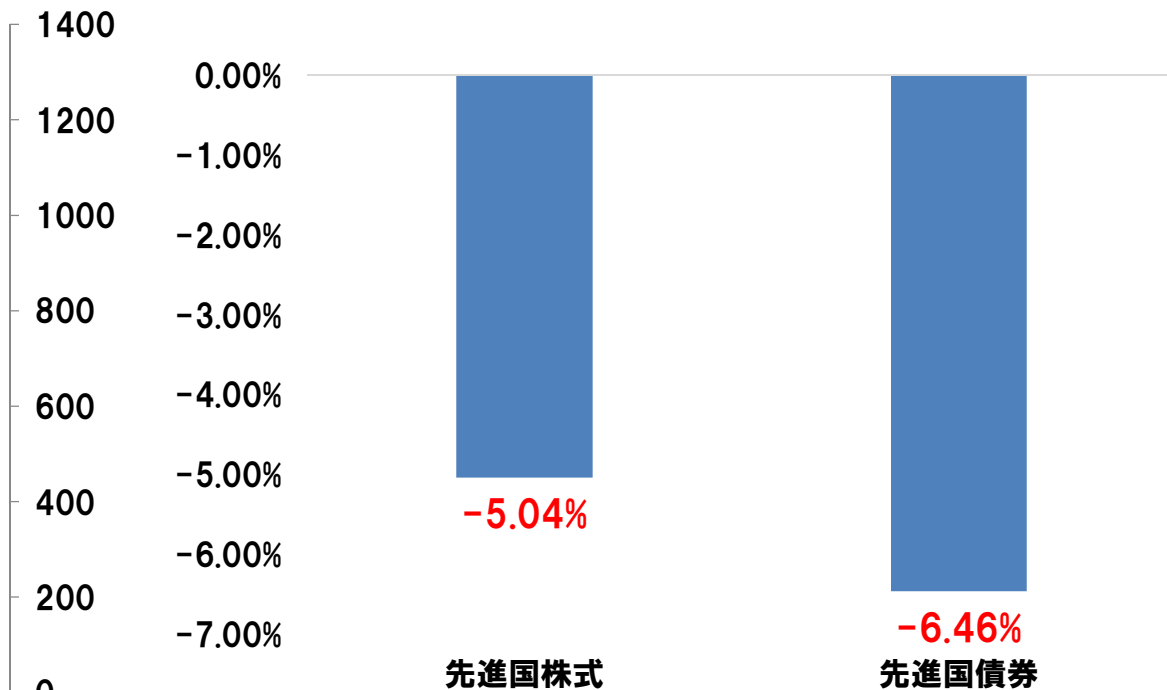
SBIアセットマネジメントのインデックスファンドの 2022年3月期第4四半期の運用残高の拡大要因

純資産残高拡大要因は投資家からの資金流入が85%

2022年3月期第4四半期の純資産増加の内訳 (2022/1/4~2022/3/31)



同期間の株式と債券のパフォーマンス



※ 先進国株式:MSCIワールド(配当込み、米ドル)、先進国債券:シティ世界国債(米ドル)

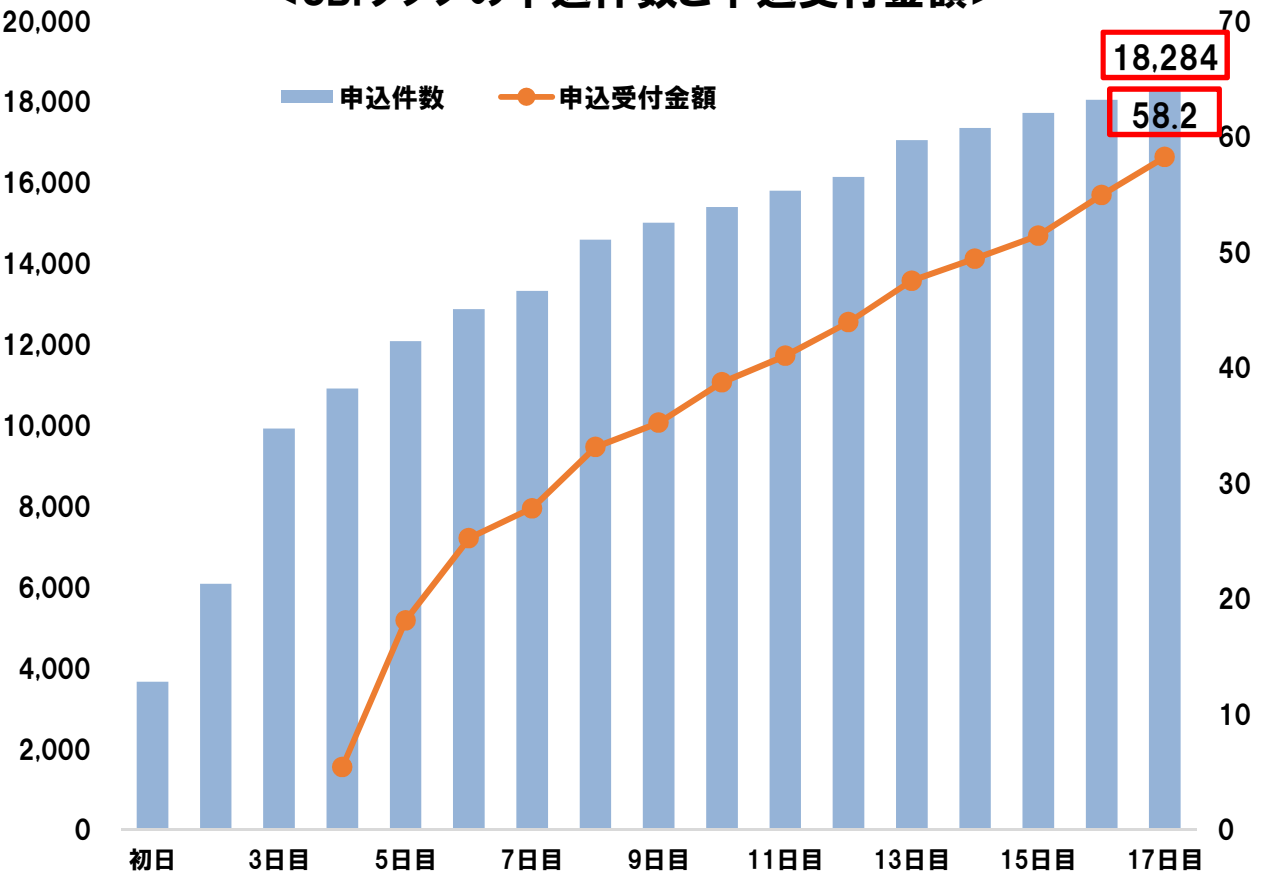
SBIアセットマネジメントの運用ファンド組み入れの「SBIラップ」は開始15営業日で50億円を突破 (2022年3月31日サービス開始)



(単位:件数)

<SBIラップの申込件数と申込受付金額>

(単位:億円)



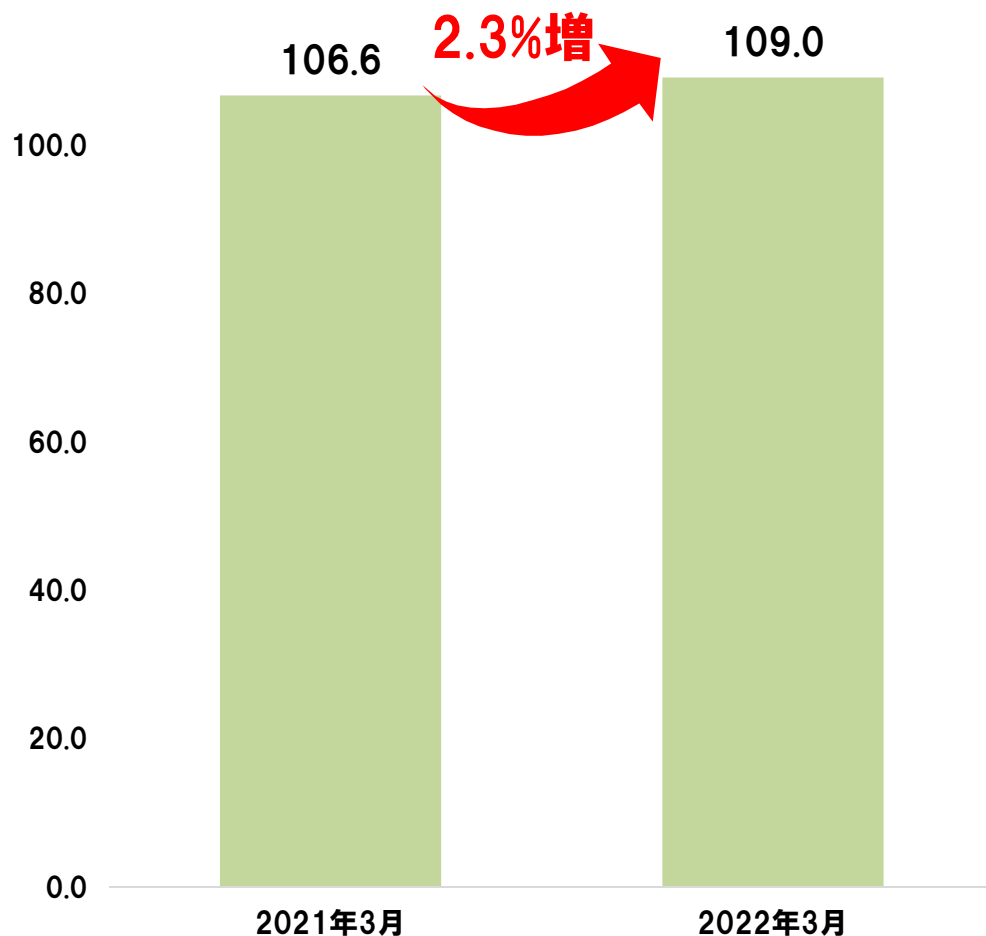
<SBIラップの8ファンドの概要>

組入ETF	TICKER
バンガード・トータル・ストック・マーケットETF	VTI
バンガード・FTSE・ディベロップド・マーケットETF	VEA
バンガード・FTSE・エマージング・マーケットETF	VWO
バンガード・トータル・ボンド・マーケットETF	BND
iシェアーズ iBoxx 米ドル建てハイイールド社債ETF	HYG
iシェアーズ J.P. モルガン・米ドル建てエマージング・マーケット債券ETF	EMB
バンガード・リアル・エステートETF	VNQ
SPDR ゴールド・シェア	GLD

「投信業界全体」と「SBIグループ2社」の私募投信残高の伸び

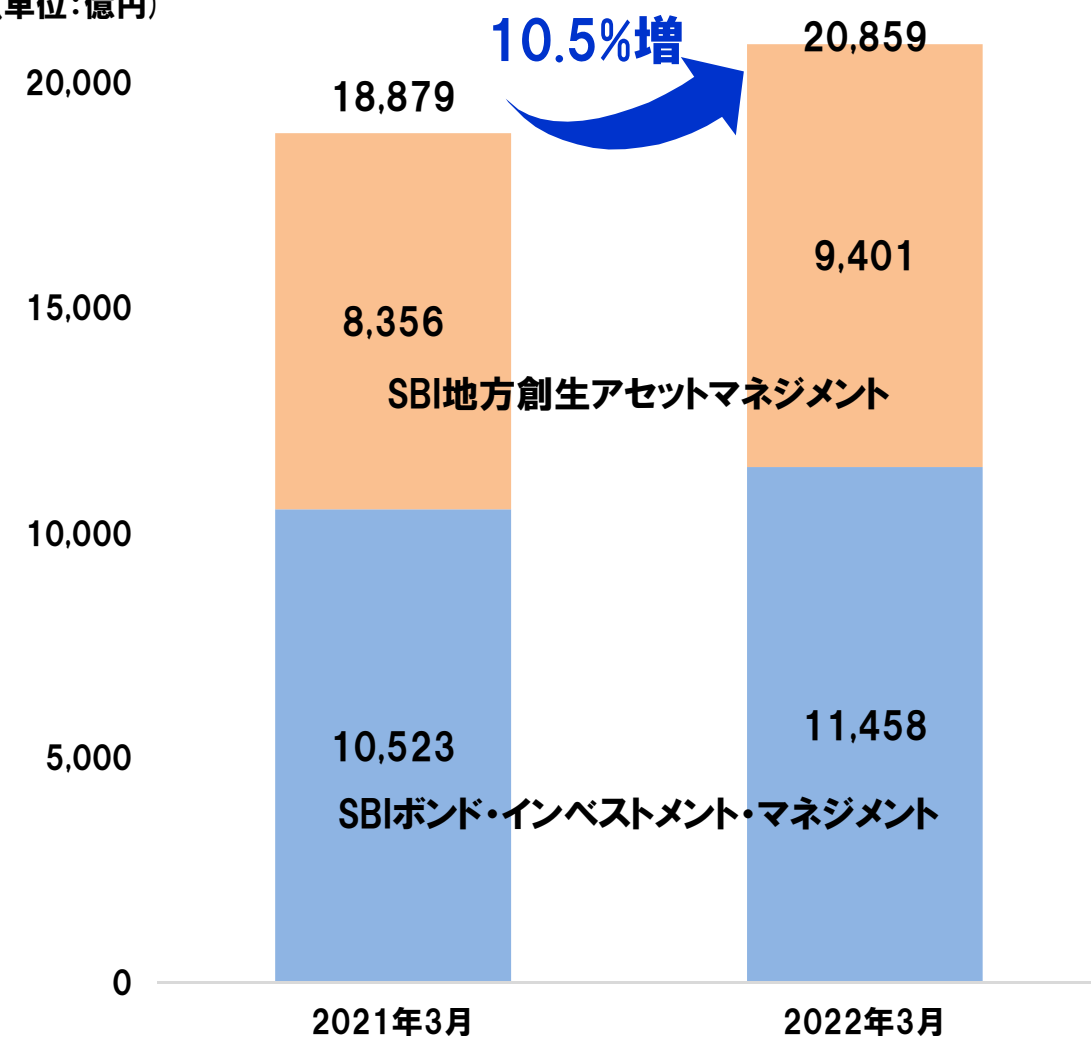
＜投信業界全体の私募投信残高＞

(単位:兆円)



＜SBI債券・インベストメント・マネジメント & SBI地方創生アセットマネジメントの運用残高＞

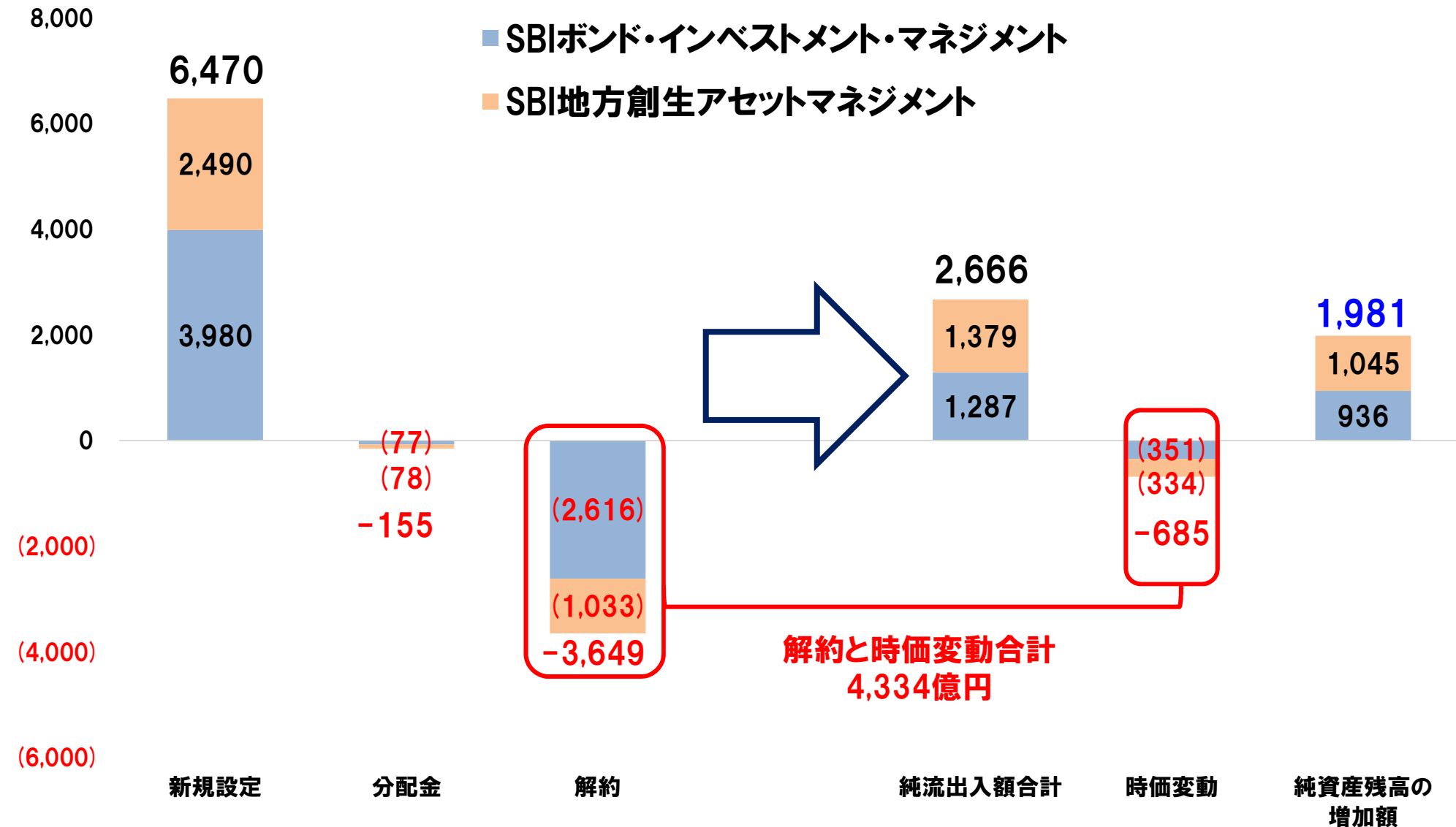
(単位:億円)



2社の私募投信の運用残高は、 大幅なマーケットの変動にも係わらず引き続き拡大

2社の運用残高の増加要因

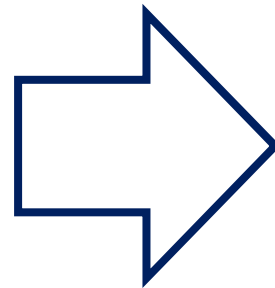
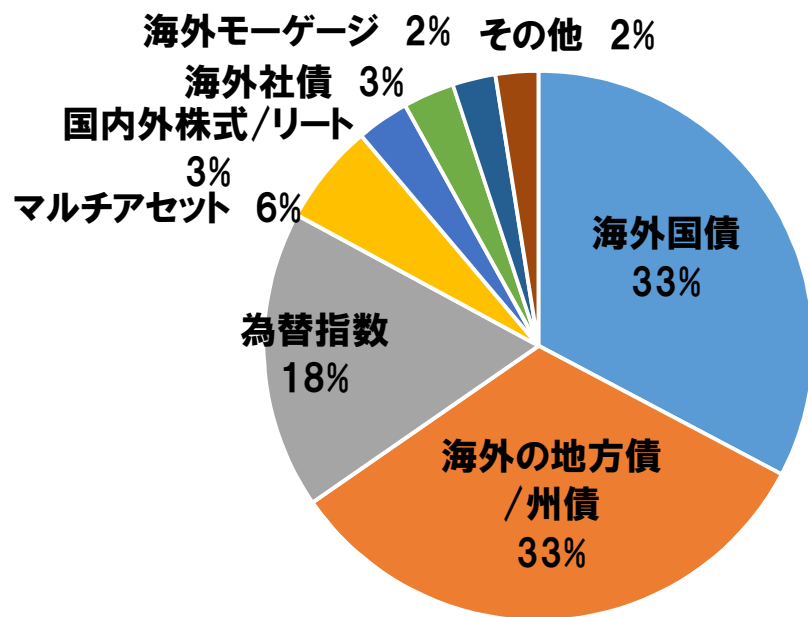
(単位:億円)



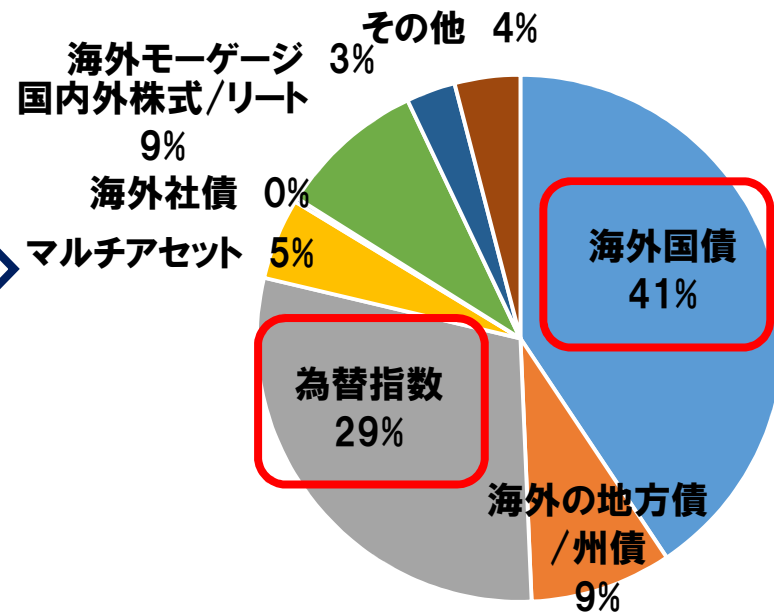
当グループ受託の私募投信の資産別構成比

- ・コロナ禍や景気の不透明感が強い中でシンプルな海外国債が増加
- ・円安傾向が続いたことでドル指数等の為替商品の設定が増加
- ・株式/リートの設定も増えており、プロダクトミックスが進展

2020年度



2021年度



ファイナンシャル・サービス事業

好調なデータ・ソリューションと
大幅に回復したメディア・ソリューション

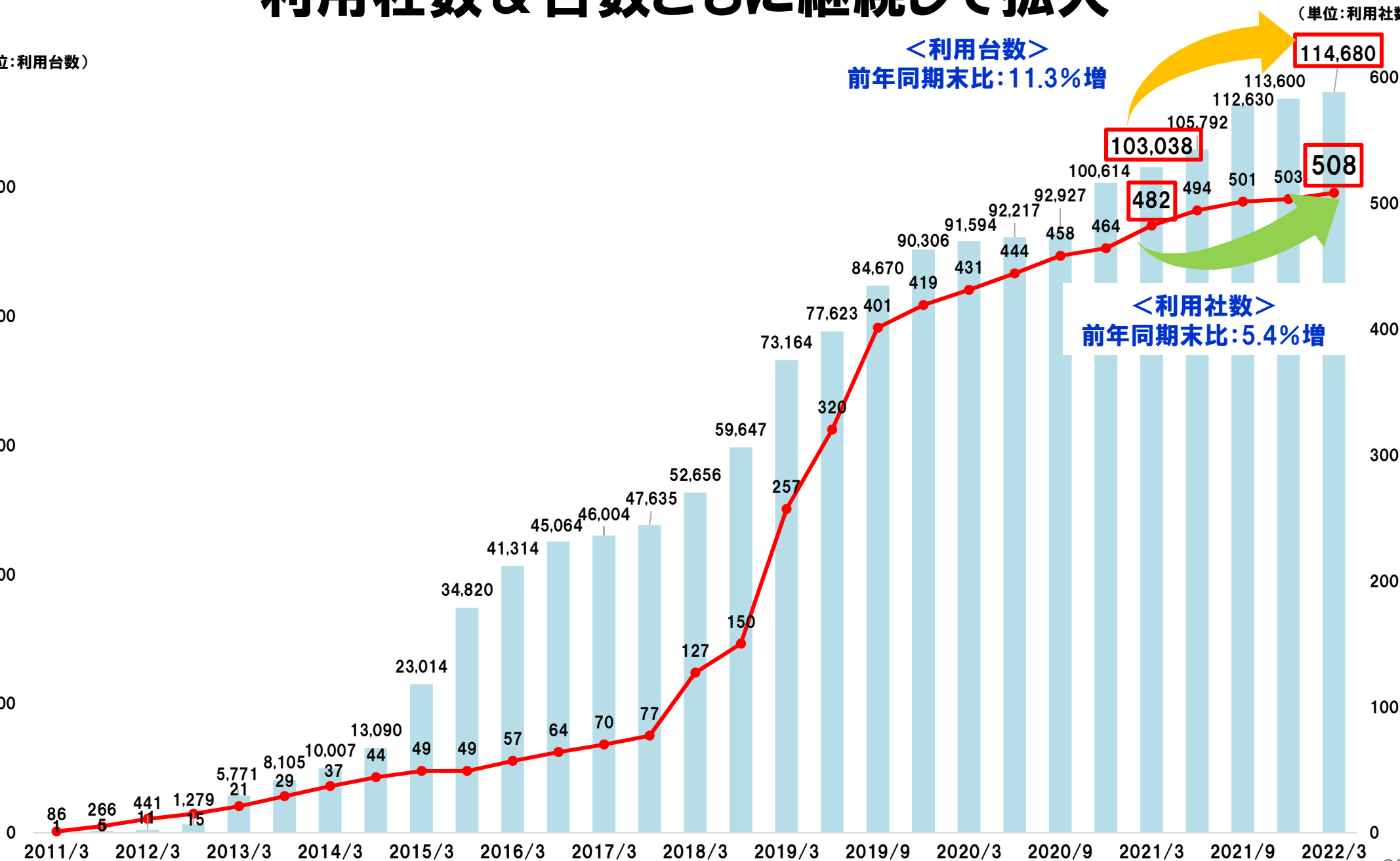
投資アドバイザーが活用する「Wealth Advisors」は、 利用社数 & 台数ともに継続して拡大

(単位: 利用台数)

(単位: 利用社数)

<利用台数>
前年同期末比: 11.3%増

<利用社数>
前年同期末比: 5.4%増



「Wealth Advisors」の「顧客関係管理(CRM)」ツールの導入検討先が増加

Phase 1

顧客へのアドバイス機能

提案

- 比較・合成チャート
- ポートフォリオ分析
- リスク・リターン分析



Phase 2

顧客情報との連携(CRM連携)

■提供中 : 4社

メガ銀行 : 1社
信託銀行 : 1社
地方銀行 : 2社

■導入検討 : 15社

地方銀行 : 11社
証券会社 : 3社
その他 : 1社

顧客情報との連携

Phase 3

売買システムとの連携

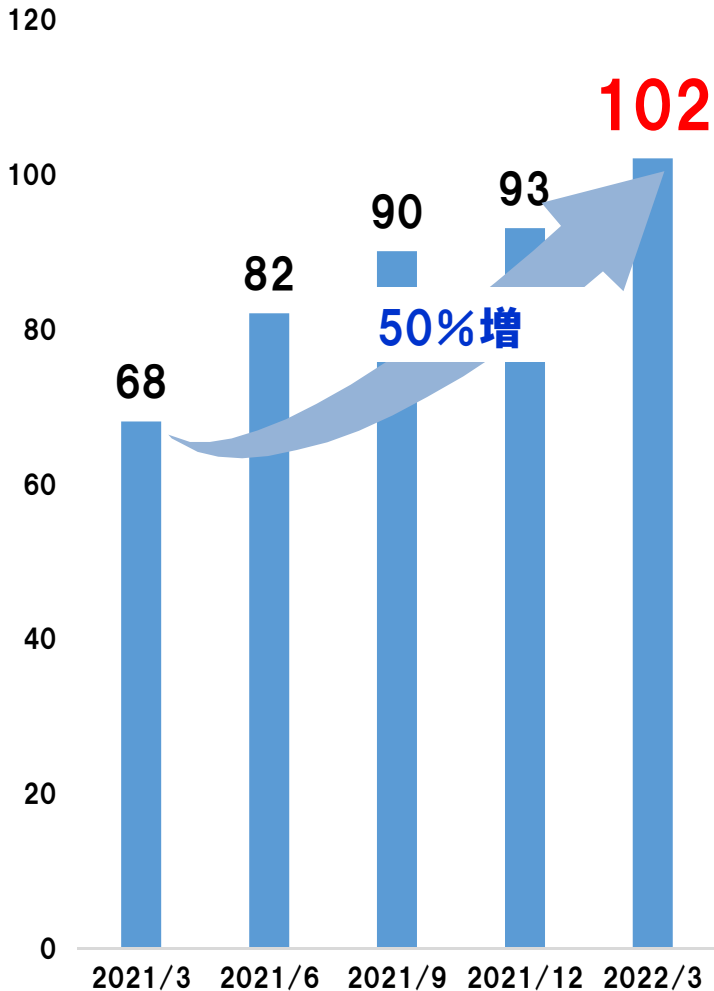
約定



金融機関のDXの積極的な推進により、 オンラインコンテンツの提供先は100社を突破

対面中心の金融機関も、お客様との非対面のアプローチを強化する動き

(単位:社)



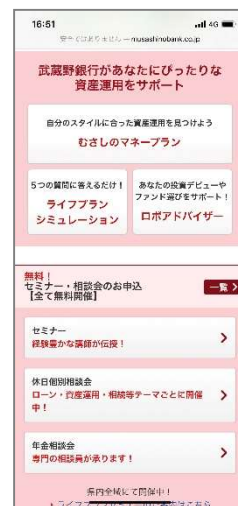
非対面

対面

ホームページ
スマートフォンサイト



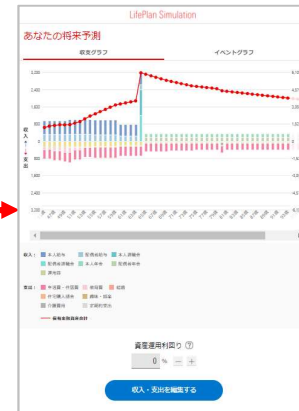
スマホアプリ



目的別または年代に対応した
シミュレーションを搭載



ライフプランシミュレーション



お客様に最適な
商品への誘導が可能

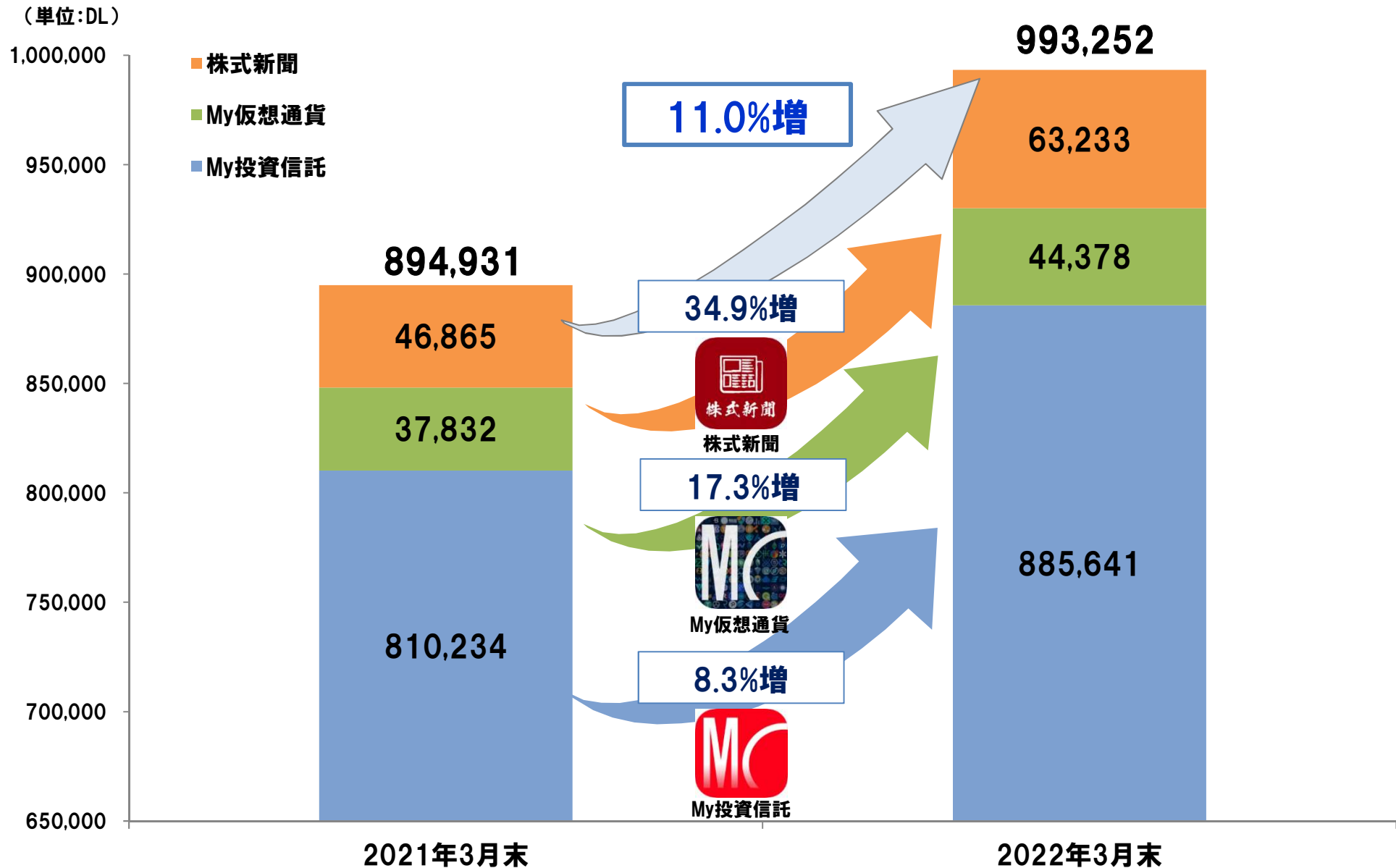
- ・来店
- ・訪問
- ・オンライン面談



相続シミュレーション

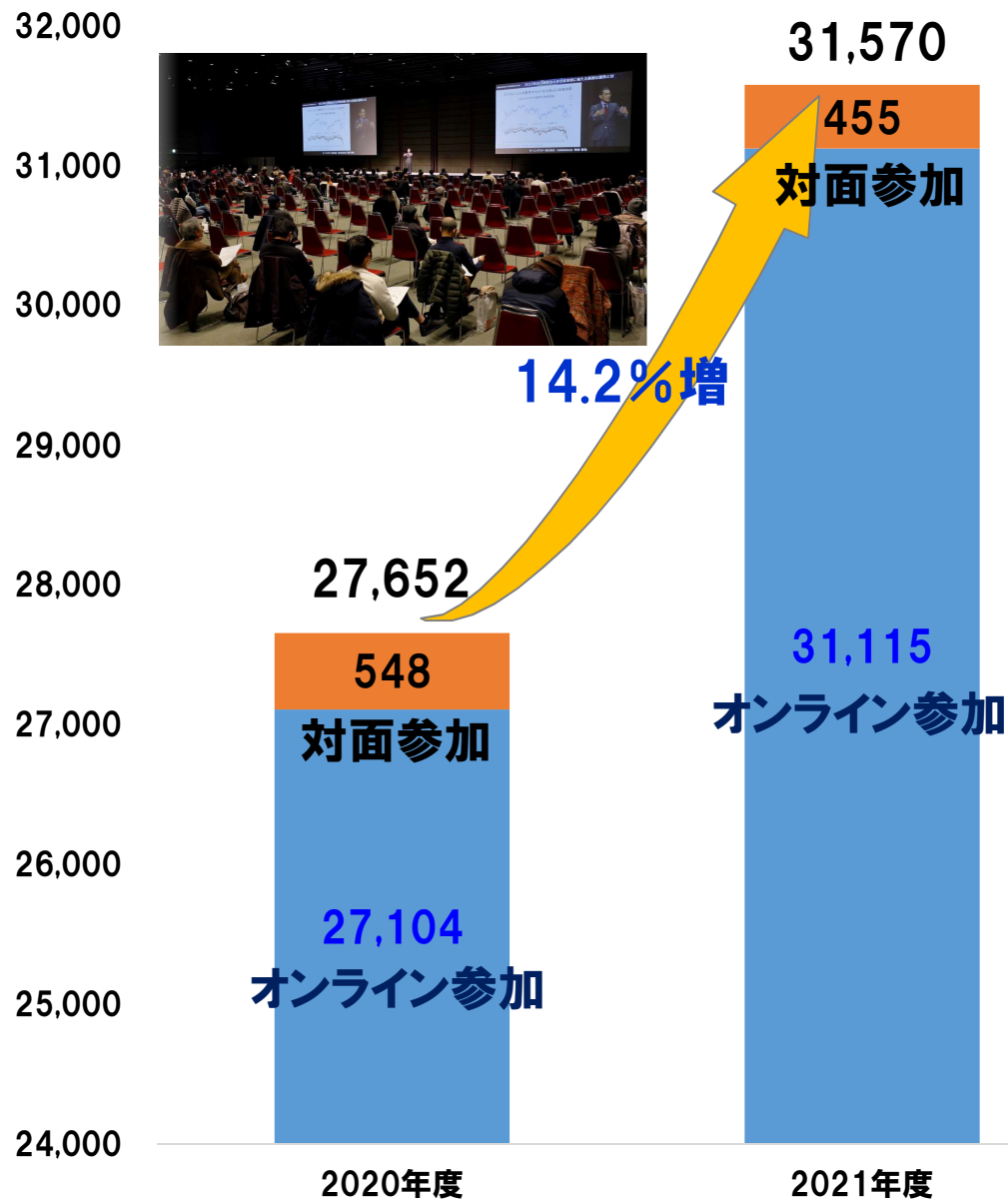


スマートフォンアプリのダウンロード数は第1四半期中に 100万ダウンロードを達成する見込み



資産運用セミナーの参加者数は、オンラインセミナー参加者の増加が寄与し、前年度から二桁の増加

(単位:人)



<今年度のセミナー予定>

■ 資産運用フェア2022in横浜
(6月11日~6月19日)

 横浜銀行 ×
  浜銀TT証券 ×
 MORNINGSTAR
横浜銀行グループ

■ 資産運用フェア2022in京都
(7月開催)

 京都銀行 ×
  京都銀行グループ
 京銀証券 ×
 MORNINGSTAR

■ 資産運用フェア2022
(6月25日開催)

MORNINGSTAR

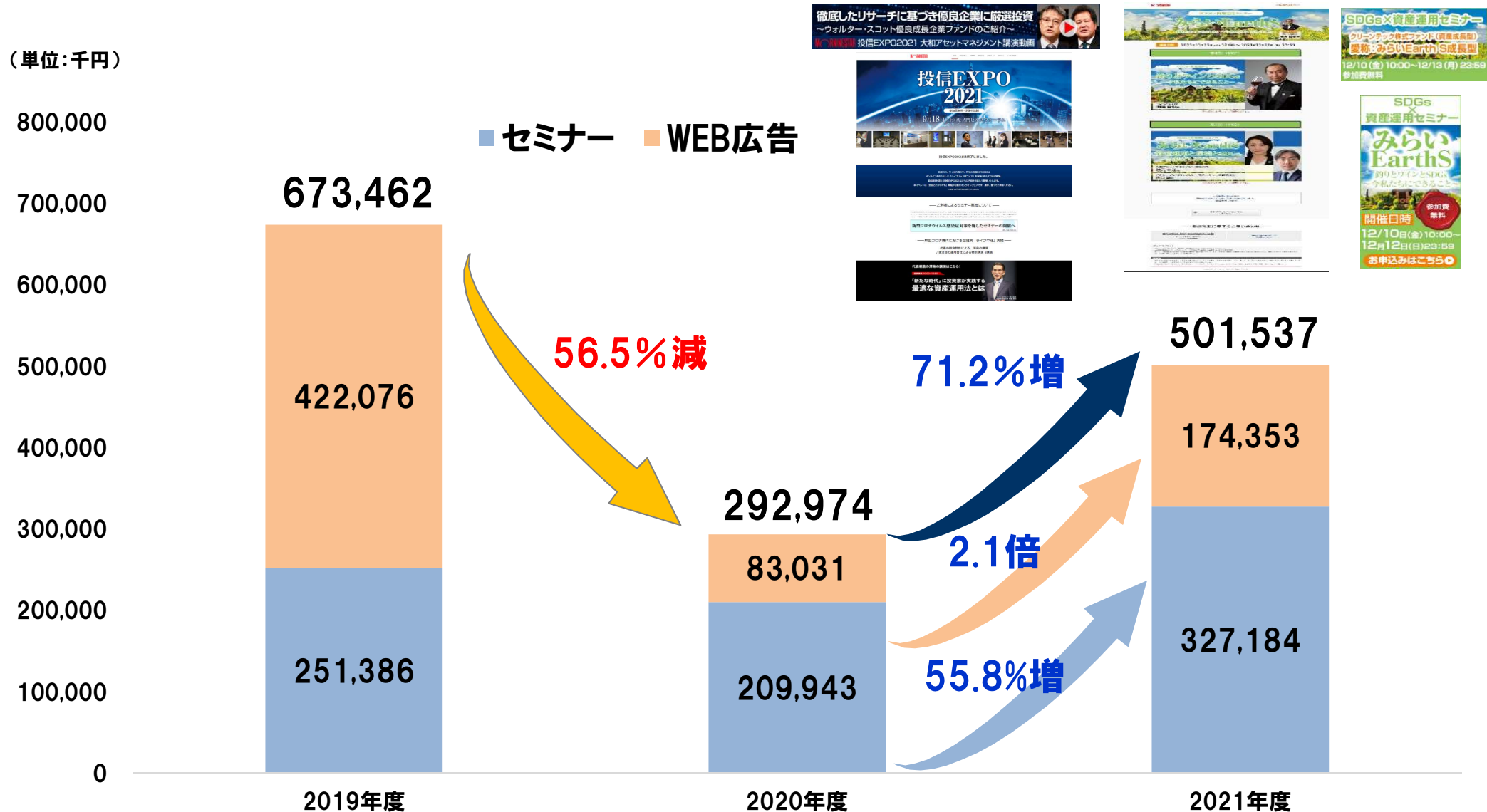
■ 投信EXPO2022
(9月10日開催)

 SBI証券 ×
 MORNINGSTAR

メディア・ソリューションはセミナー・WEB広告とともに大幅に回復

メディア・ソリューション(セミナー・WEB広告)の売上高の推移

(単位:千円)



今年度以降、積極的に推進する施策

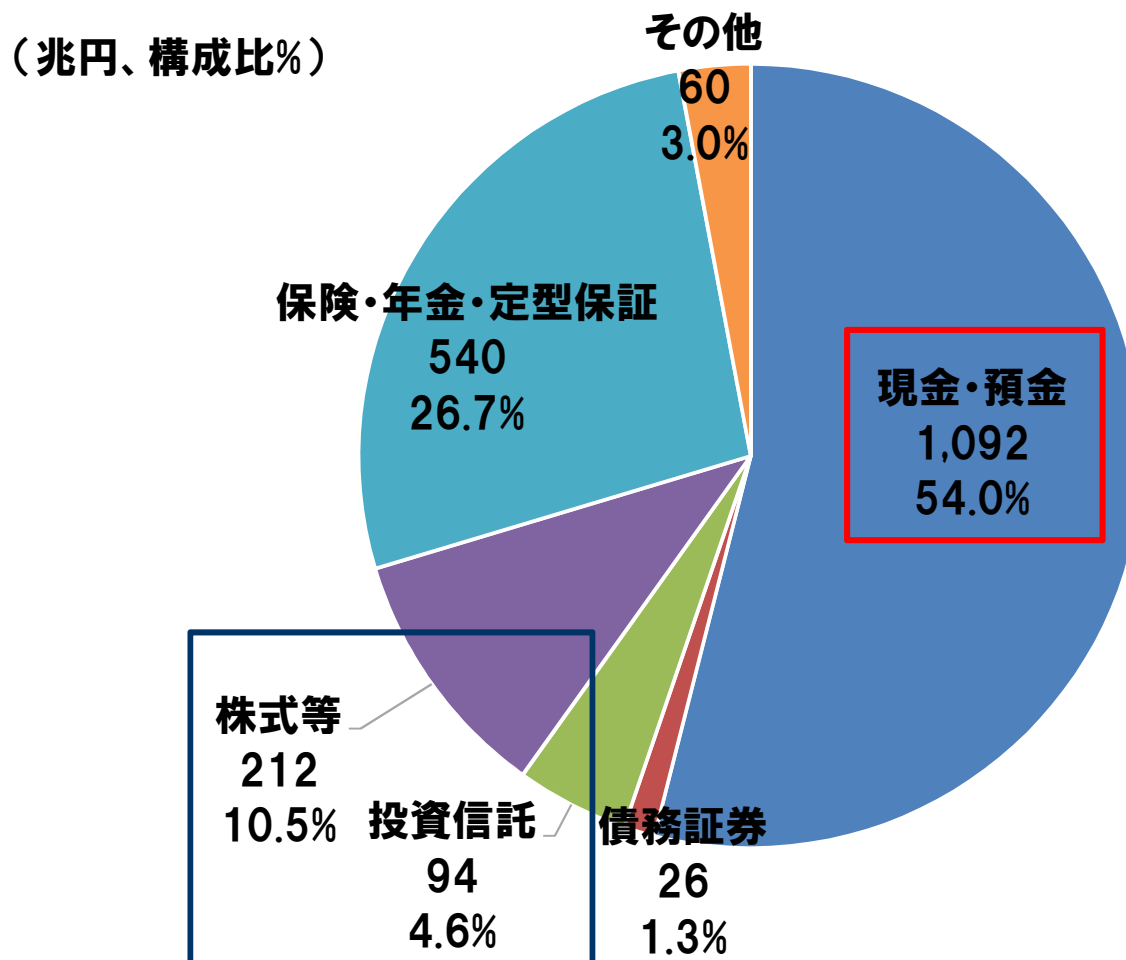
今年度以降、積極的に推進する施策

- ① 国内外のアセットマネジメント企業の買収
およびジョイントベンチャーの設立
(投資資産の更なる多様化・高度化を図る)
- ② 様々なオルタナティブファンドの組成および運用
(暗号資産、セキュリティ・トークン、不動産、インフラ、
プライベートエクイティ、プライベートデット等の提供)
- ③ 「貯蓄から資産形成」の入り口となるラインプラン
シミュレーションツールの提供
(ライフプランシミュレーションツールと投資アドバイスツール
「Wealth Advisors」を併存して活用)
- ④ 次世代資産のデジタルアセットを含む総合金融サイトの構築
(SBIグループが強力に推進するデジタル・スペースにおける
事業展開のサポート)

「貯蓄」から「資産形成」に向けた積極的な支援

- ・日本の家計の金融資産は2,000兆円を突破
- ・現金・預金は1,000兆円を突破し、依然として全体の54.0%

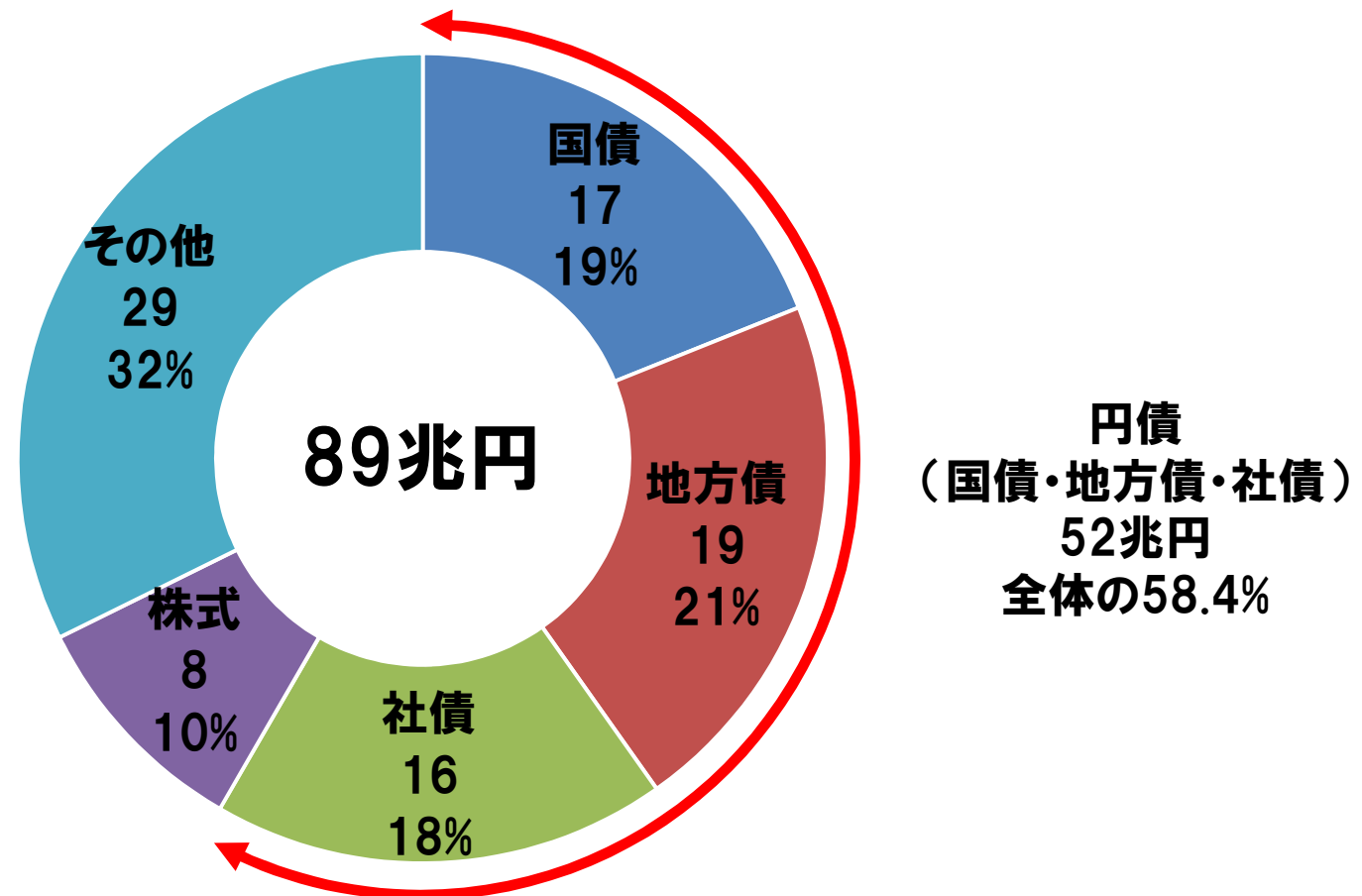
2,023兆円(2021年12月末)



地域金融機関の有価証券運用の高度化と多様化の支援

利回りの低い円債(国債・地方債・社債)は52兆円(地銀全体の58.4%)

地域銀行の有価証券の保有状況
(2021年度中間期時点)



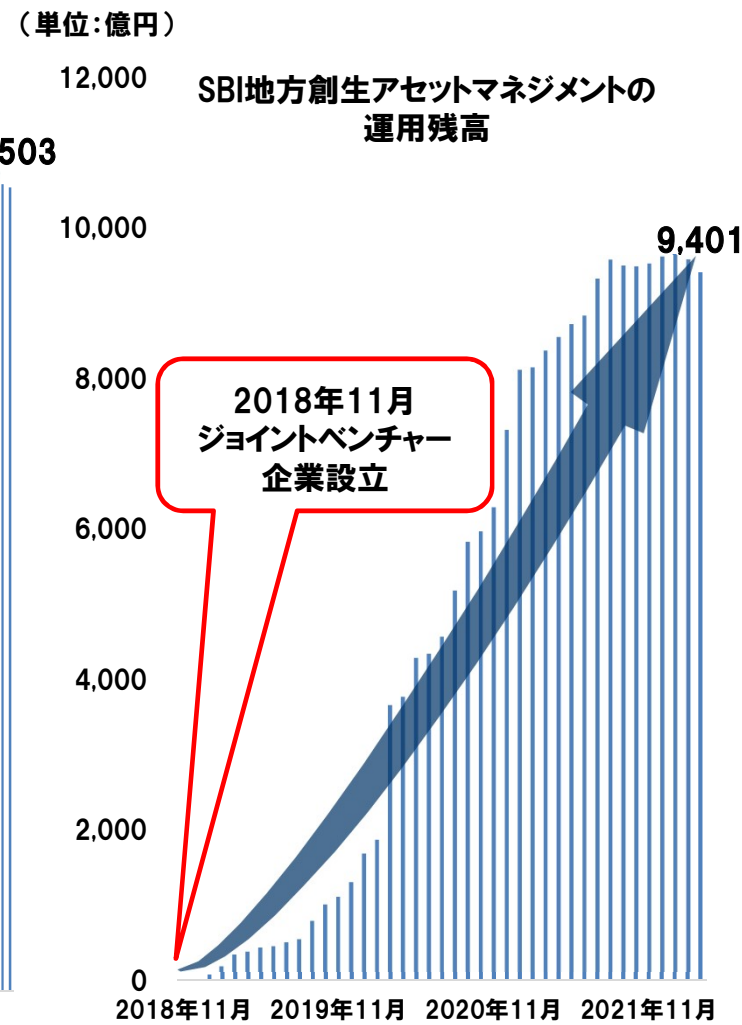
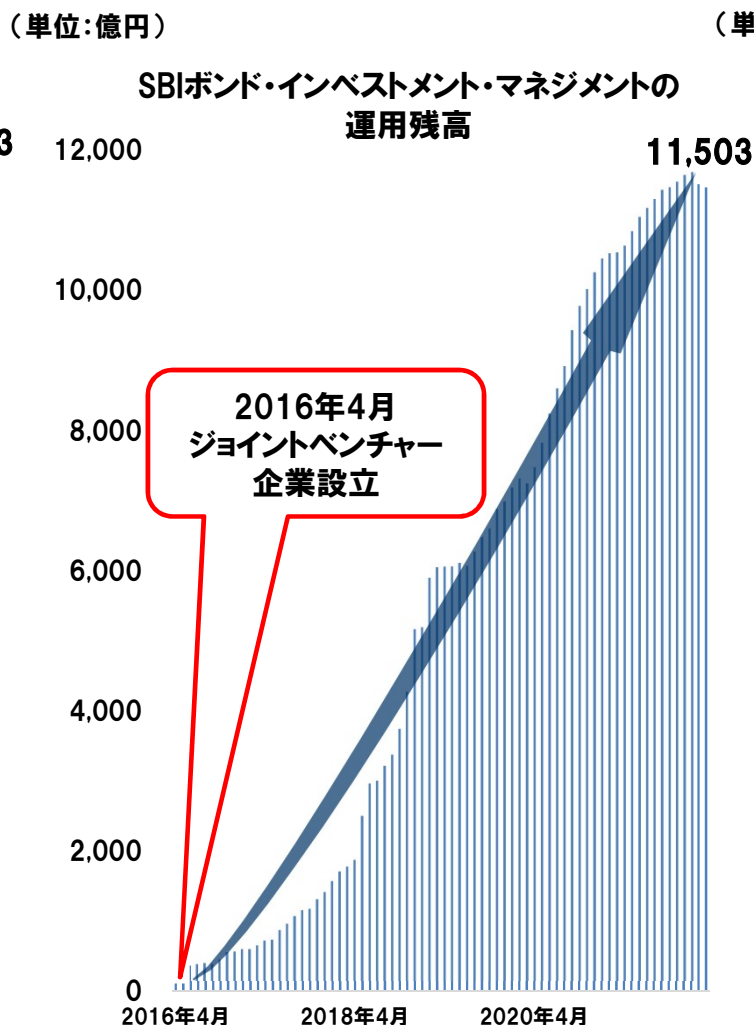
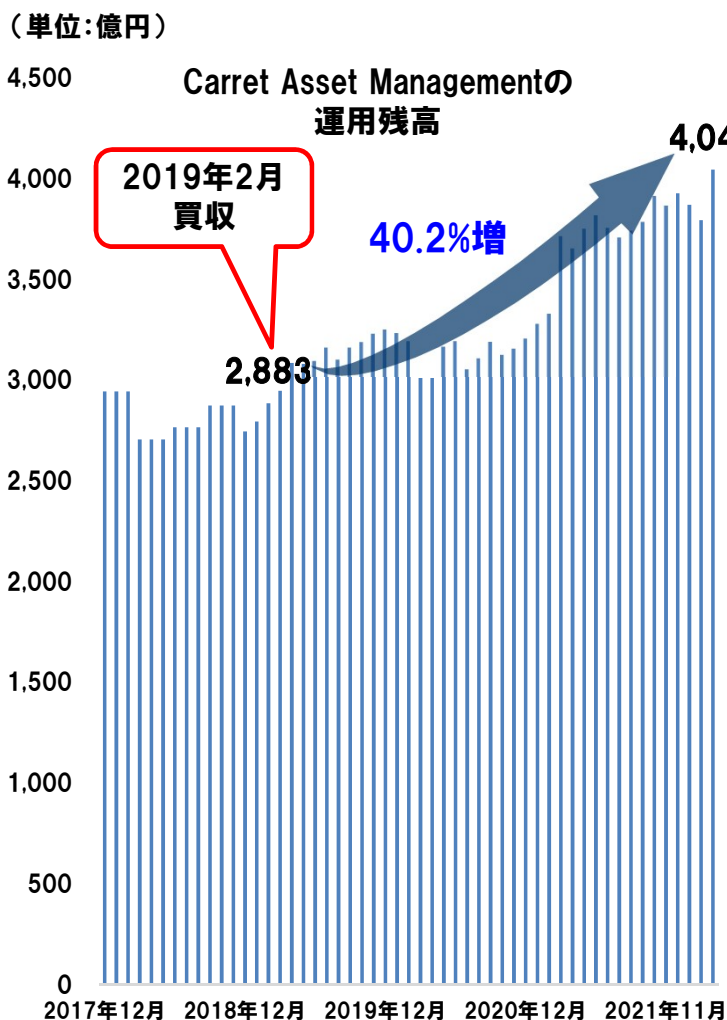
国内外のアセットマネジメント企業の買収及び ジョイントベンチャーの設立

買収及びジョイントベンチャー設立の成功事例

<米国のCarret Asset Managementの買収>

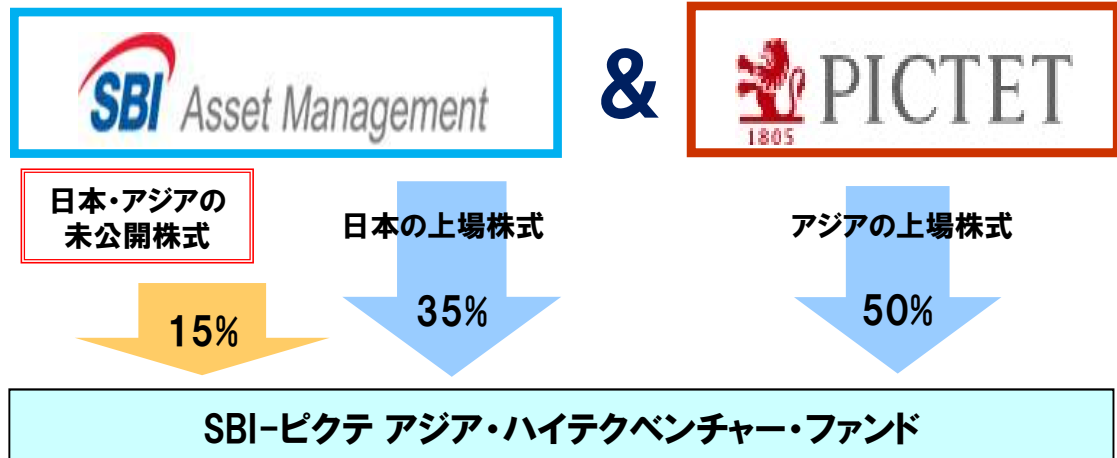
<米国PIMCOとのジョイントベンチャー>

<地方銀行39行とのジョイントベンチャー>



未公開企業組み入れファンド

「SBI-ピクテ アジア・ハイテクベンチャー・ファンド」の 未公開企業への投資は、既に2社に投資済み



- ◆ SBI とピクテとの初のコラボレーションファンド
(設定日:2020年7月29日)
- ◆ 日本とアジアの未公開企業に最大15%を投資
- ◆ 日本とアジアのハイテクベンチャー企業に投資

- ◆ 組入未公開企業：2銘柄
 - ラピュタロボティクス: ITを活用したロボット向けプラットフォーム
 - インフォキュリオン: 「金融 x テクノロジー」の力で社会変革を目指すDXカンパニー

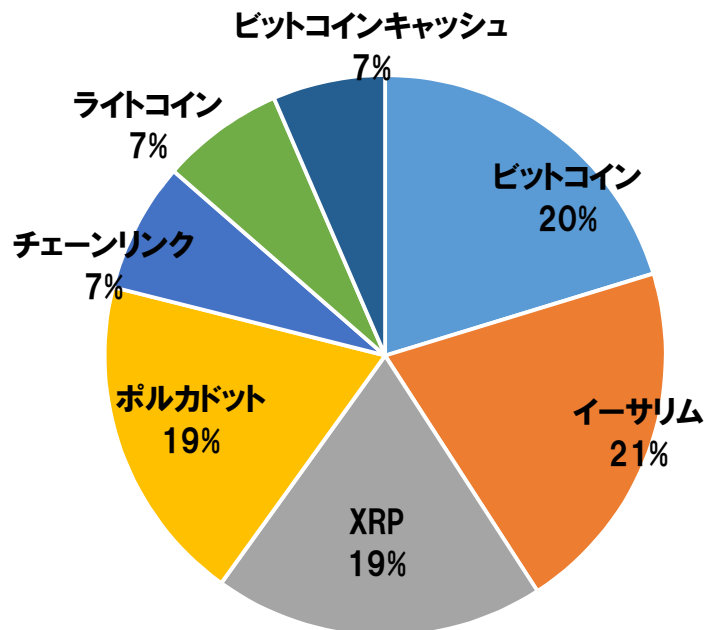
<設定来の基準価額の動き(2022年3月末)>



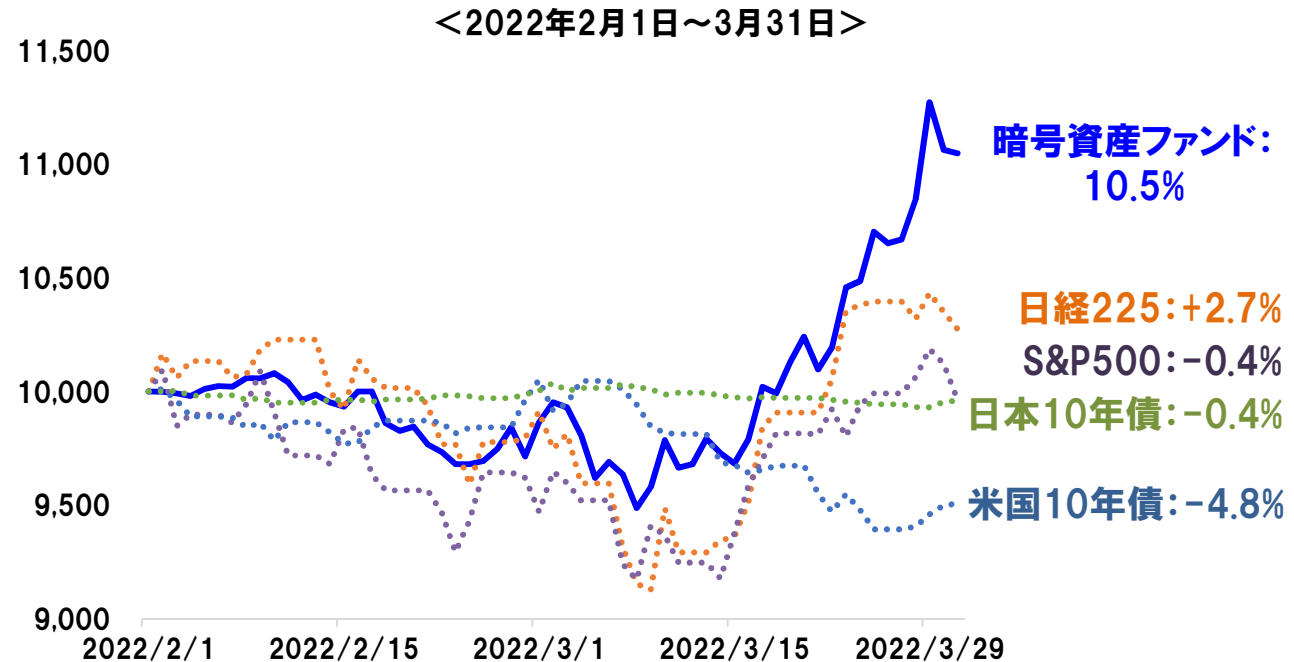
国内初の暗号資産ファンドは 厳しい市場環境の中、主要な指数を上回るパフォーマンス

- ・2022年2月1日に国内初の暗号資産ファンド(匿名組合)として設定
- ・SBIVCTレード取り扱いの7通貨を投資対象
- ・時間分散効果を利用してポートフォリオ構築中(2022年3月末で約2/3構築完了)

【投資済の暗号資産の組入比率】



【ファンドおよび他の主要な指数の推移】



※ 2022年2月1日を10,000として弊社試算

最適な投資・資産形成の入り口となる 「ライフプランシミュレーション」ツールの提供開始

2022年4月から提供を開始し、今年度は60社の導入を目指す

(単位:社)

70

60

50

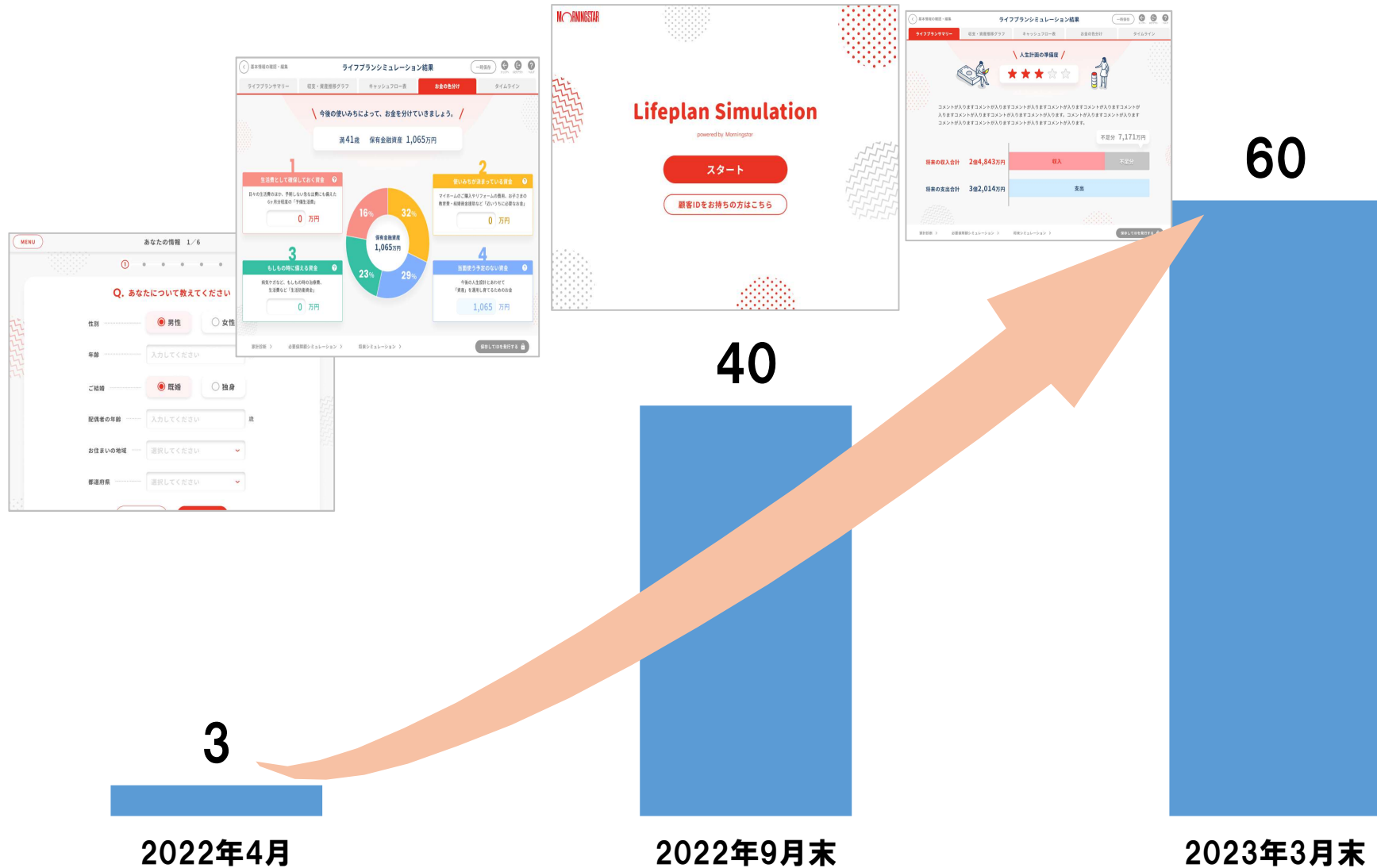
40

30

20

10

0



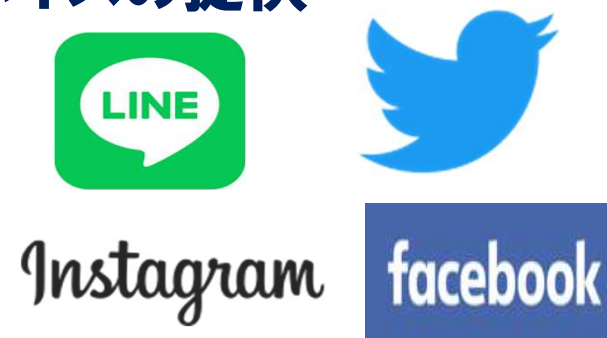
次世代のデジタルアセットを含む総合金融サイトの構築へ

SBIグループが強力に推進するデジタル・スペースにおける事業展開のサポート

E-Advisor



メタバース上でのイベント開催、各種SNSや動画を通じて、デジタルアセットを含めた総合的な金融情報の発信及び投資アドバイスの提供



配当と株主優待

当期利益は13期連続の増益、9期連続の過去最高益を更新

連結当期利益の推移

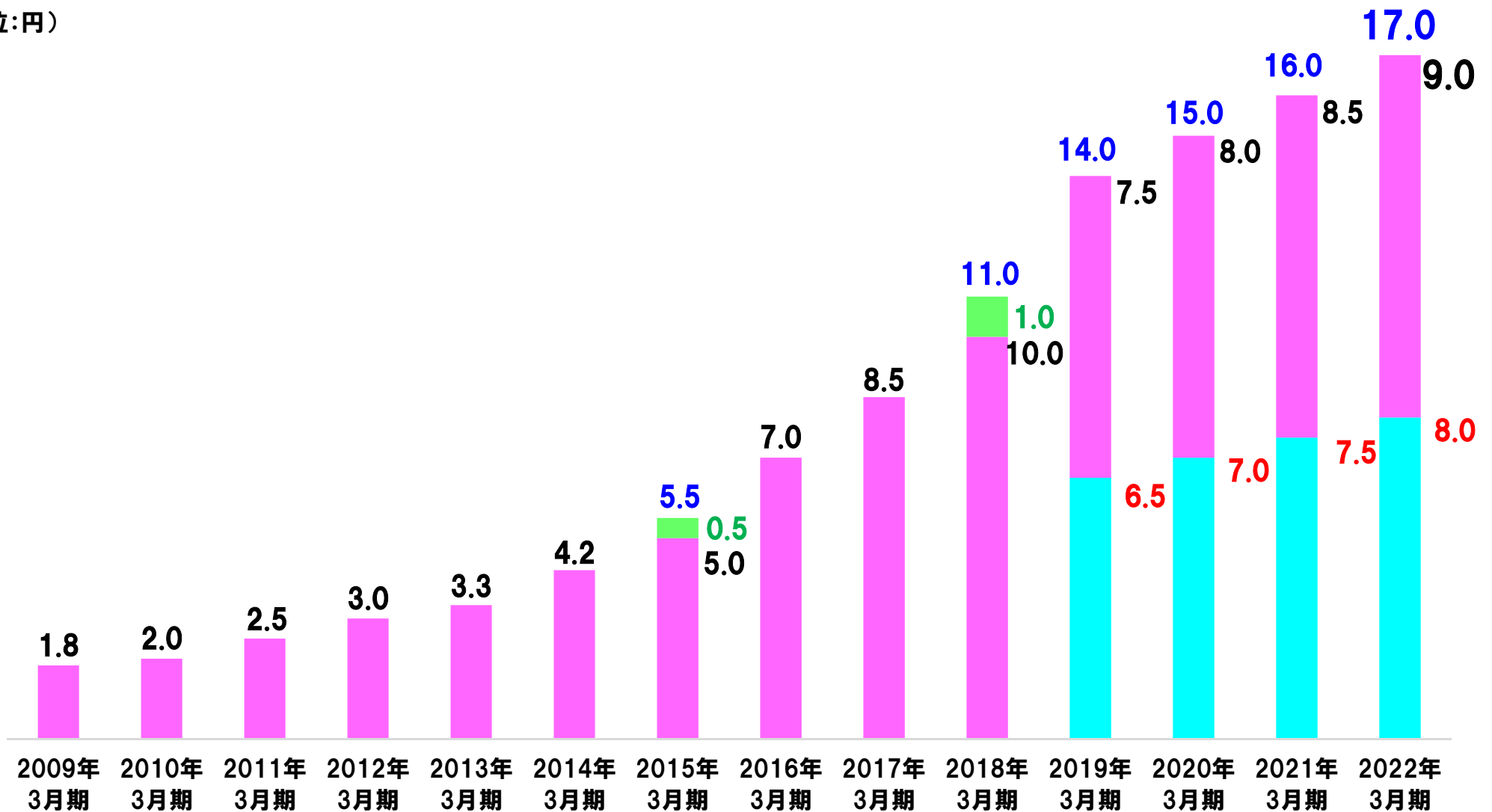
(単位:百万円)



※ 当期利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を意味する。

配当は13期連続の増配を実施

(単位:円)



(注) 2015年3月期の記念配当は、上場15周年記念配当であります。
2018年3月期の記念配当は、設立20周年記念配当であります。

**連続増益・増配を13期以上続ける企業は
全上場企業3,921社(2022年4月15日時点)の中で、
当社を含めてわずか4社**

当社は当期利益の成長率、ROE成長率で4社の中で最も高い

銘柄名	コード	連続増益・ 増配の回数	当期利益の成長率 (10年年率)	ROE成長率 (10年年率)
モーニングスター	4765	13期	13.9%	10.9%
小林製薬	4967	15期以上	5.2%	-1.5%
ニトリホールディングス	9843	15期以上	11.3%	-3.9%
パン・パシフィック・ インターナショナルホールディングス	7532	13期	11.2%	2.1%

※ 連続期は会社予想を含む(4月15日時点で予想を公表している企業)。増益は当期利益ベース。

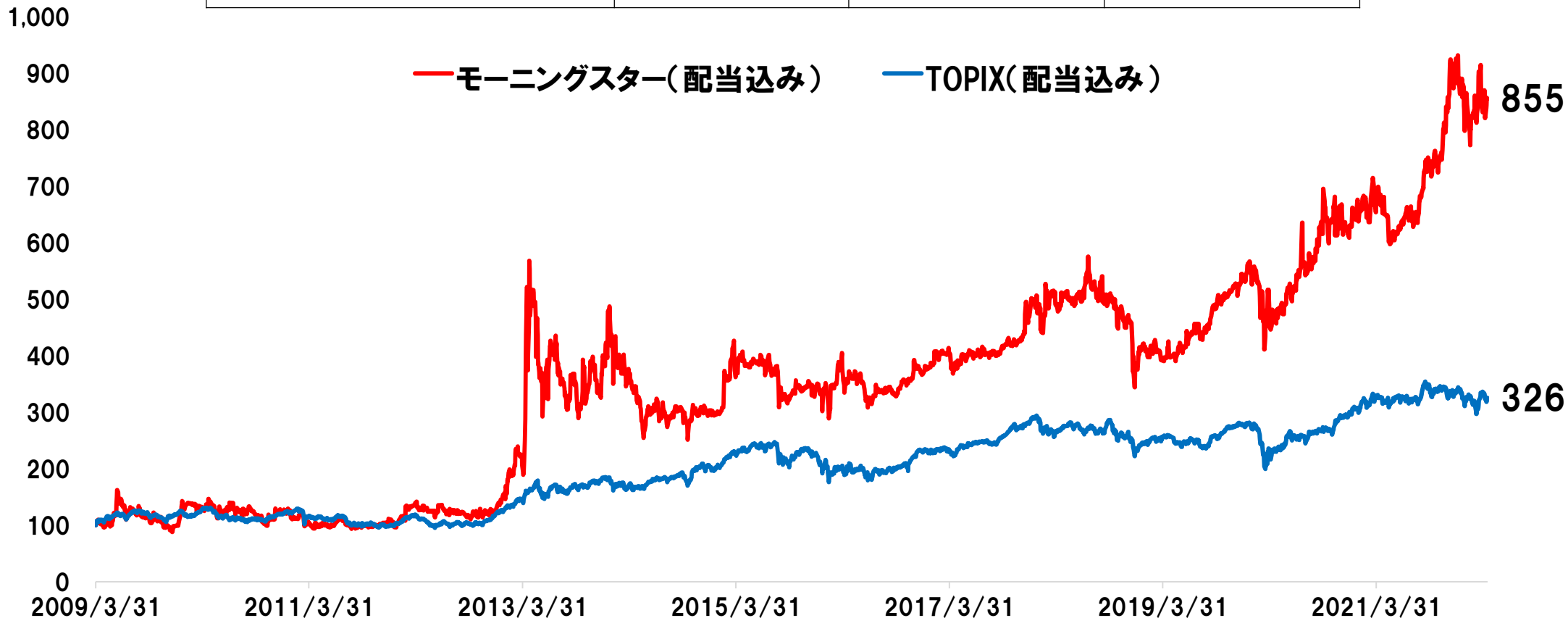
※ 当期利益の成長率(10年年率)は、今期業績予想を含んだ10期前から算出。

※ ROE成長率(10年年率)は、10期前から前期までの年率成長率。

13期連続増益のスタート時(2009年3月末) からの当社株価(配当込み)は約8.6倍(年率17.6%)の上昇

<期間2009年3月31日－2022年4月14日>

	モーニングスター (配当込み)	TOPIX (配当込み)	対TOPIX
※13年トータルリターン(年率)	17.6%	8.8%	+8.8%



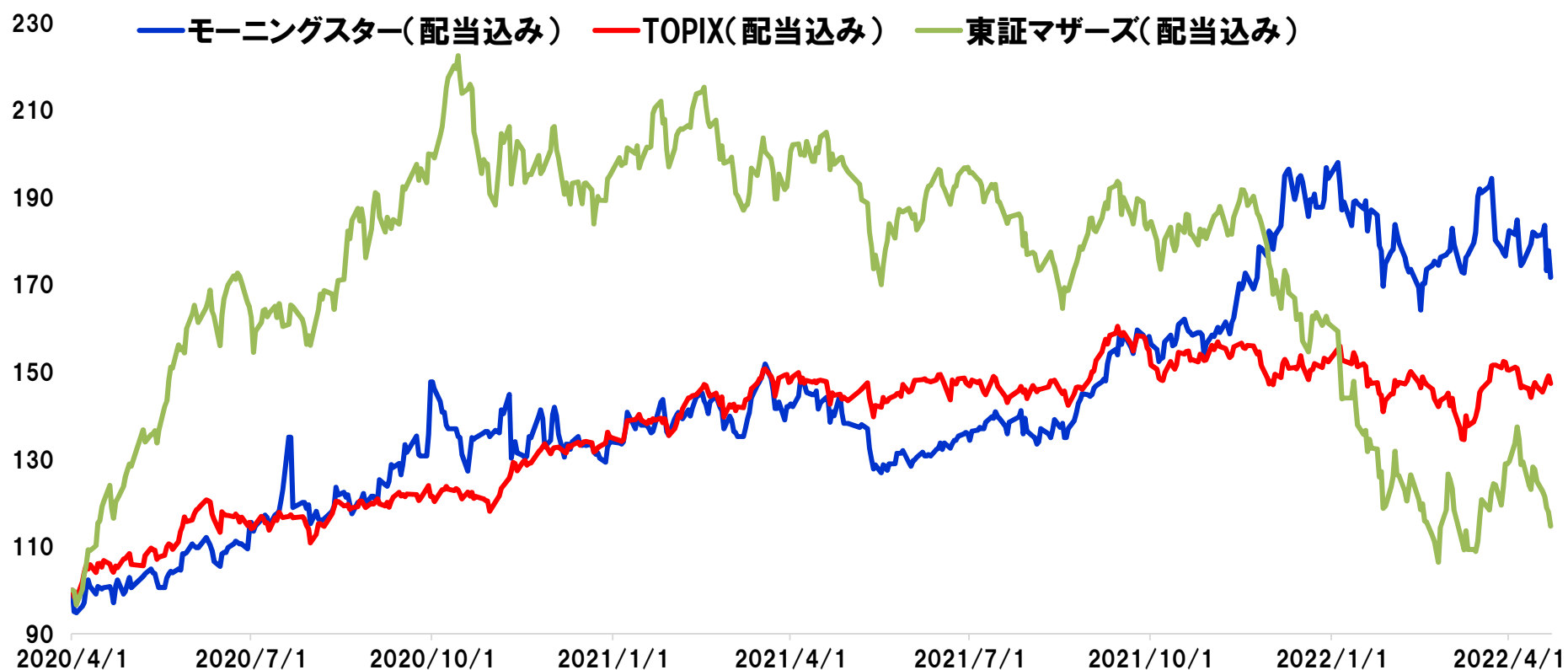
※ 2009年3月31日を100として指数化

※ トータルリターンの年率計算は、2009年4月14日～2022年4月14日を対象

コロナショック後の当社株価はTOPIX、マザーズ指数を上回るパフォーマンス

<期間2020年4月1日－2022年4月22日>

	モーニングスター (配当込み)	TOPIX (配当込み)	東証マザーズ (配当込み)
2年トータルリターン (年率)	32.9%	19.0%	-0.8%



※ 期間:2020年4月1日～2022年4月22日、2020年4月1日を100として指数化

株主優待の実施

期末株主の皆様へ「株式新聞ウェブ版(通常1ヶ月4,400円(税込))」と
2,500円相当の暗号資産(仮想通貨)23XRPを進呈

単元数(株数)	(1) 株式新聞ウェブ版	(2) 仮想通貨(暗号資産)XRP	通常価格※ 相当額合計
1単元(100株)以上 5単元(500株)未満	 <p>2022年6月1日から 2022年12月3日まで 6ヵ月無料購読クーポン (26,400円相当)</p>	 <p>2,500円相当の 暗号資産(仮想通貨) 23XRP※を贈呈</p>	28,900円
5単元(500株)以上	<p>2022年6月1日から 2023年6月3日まで 12ヵ月無料購読クーポン (52,800円相当)</p>		55,300円

※ 通常価格相当額は、(1)『株式新聞ウェブ版』の通常販売価格(税込)と(2)暗号資産(仮想通貨)XRPの2,500円相当額の合計額。
贈呈する2,500円相当の暗号資産(仮想通貨)XRPの数量は、2022年3月31日17:00現在の価格(1XRP=106.7円)をもって、23XRPと決定。(1XRP未満切捨て)

株主数の推移

株主数は東証一部市場変更から約2.5倍に増加

(単位:人)

